The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 231. SEPTEMBER, 20TH. 1890.

第二百三十一號目次

EDITORIAL :—The Good Man.

MISCELLANEOUS :—The Art of testing "Naginata." An Interview with Mrs. Ogino M. D. The Sea or the Mountain? An Interview with Madam Bravaski. Divorce. The First Lady—physician of Australia. A Summer Journal. The Dog that Seizes upon the Chicks. My Mother's hymn. Humourous.

NOVEL :—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社說　好人物○下宿屋

雜錄　薙刀術(青山栄司)○女醫荻野ぎん子を訪ふ○ブラヴアツキー女史を訪ふ○離婚に關する二種の異見○澳國第一の女醫○消夏錄○雛を捕ふる犬○母を想ふの歌○きよめぬ點

小說　小公子

批評　新作十二番の内、此ぬし○日本歷史

寄書　迷信誤認○東家小女○我子は如何に(梢村居士寄)

開書　某地の一學生に云ふ○契約

時事　光氏居士の筆○自由、改進○内閣諸公に辭職を勸む○元老院○西陣織の前途○時事新報紙上娼妓の出現はる○神官の決議○常撰後の議員○安息○レスト、カッテージ○細民婦女の内職○印度の子供婚姻○ダイヤー氏○那珂道世、根本正兩氏○根本正氏の新婚○米國女記者○子守學校○靜岡青年會婦人會○和歌山婦人傳道會○太田婦人協會○岩崎滋賀縣知事の歡米主義○耶佛相對○無月謝女學○廢娼記事○通信

WORLD'S W. C. T. U.

Founded 1883.

Motto.—For God and Home and Every Land. Object.—To unify the methods of woman's temperance work the world over, and to circulate a petition for the prohibition of the traffic in alcoholic drinks and opium, and other social reforms.

All members wear a little knot of white ribbon, and a member the noon hour of prayer for all temperance work and workers, and for the coming of Christ's Kingdom.

President—Miss Frances E. Willard, Evanston, Ill.

Vice Presidents—England, Lady Henry Somerset, 16 Memorial Hall, Farmingdon St., London, E. C.

Canada—Mrs. Fawcett, Toronto.

China—Mrs. Dr. Farnham, 18 Peking Road, Shanghai.

Japan—Mrs. Saku Asai, Tokio.

Hawaiian Islands—Mrs. Mary S. Whitney, Honolulu.

New Zealand—Mrs. Catherine Fulton, Dunedin.

Queensland, Australia—Mrs. Elizabeth Brentnall, Box 61 G. P. O. Brisbane.

South Australia—Mrs. E. Nicholls, Prospect, Adelaide.

Victoria—Mrs. Mary M. Love, Armadale, Melbourne.

Ceylon—Mrs T. S. Smith, Tillipally, Jaffna.

India—Mrs. McDonald, F. C. M. Calcutta. Nat. Lecturer, Pundita Ramabai, Chowpati, Bombay.

Burmah—Miss Ruth W. Ranney, Rangoon.

Turkey—Mrs. W. E. Locke, Philippopolis, Bulgaria.

Africa—Miss Pride, Huguenot Seminary, Capetown.

Siam—Miss Mary L. Cort, Petchaburee.

Sweden—Madame Andersson-Meijerhelm, 17 Sodra Humlegardsgaten, Stockholm.

Straits Settlement—Mrs. Marie Oldham, Anglo-Chinese School, Singapore.

Mauritius—Mrs. Bishop Royston, Bishop's Thorpe, Rose Hill.

Norway—Fru Ragna Colsen, Nordal Brunsgade 10, Christiania.

New South Wales—Mrs. L. Bowes, Stanmore, Sydney.

Tasmania—Mrs. Grace Selfe, Mildmay Cottage, Launceston.

Mexico—Mrs. Margaret Tabor, Zacatecas.

Jamaica—Miss Mary Dillon, Mandeville.

Chili—Mrs. Ida A. T. Arms, Colegio Americano, Concepcion, Chili.

Corresponding Secretary—Mrs. Mary Clement Leavitt, care of Miss Amy Leavitt, 1225 Massachusetts Ave., N. W. Washington, D. C.

Secretaries—American—Mrs. Mary A. Woodbridge, Ravenna, Ohio. British—Mrs. Mary Whitall Costelloe, 40 Grosvenor Road, Westminster, London, S. W. England.

Treasurers—American—Miss Esther Pugh, 161 LaSalle St., Chicago, Ill. British—Mrs. James Gregson, Heart's Hill, Debden Green, Loughton, England.

World's Organizers—Europe, Miss Charlotte A. Gray, Stensberggade 25 Christiania, Norway. Northern Europe—Madame Andersson-Meijerhelm, 17 Sodra Humlegardsgatan, Stockholm, Sweden. American Committee—The five General Officers of N. W. C. T. U.

Supt. Department of Bible Readings—Mrs. Hannah Whitall Smith, 44 Grosvenor Road, Westminster, London, S. W., England.

Supt. Department of Scientific Temperance Instruction—Mrs. Mary H. Hunt, Hyde Park, Massachusetts.

Supt. Department of Prisons, Police Stations and Almshouses—Mrs. J. K. Barney, Providence, R. I.

American Supt. Legal Dept.—Mrs. Bishop John P. Newman, Omaha, Neb.

Supt. Fairs and Expositions—Mrs. Josephine R. Nichols, 519 N. Pennsylvania St., Indianapolis, Ind.

Supt. Dept. Peace and International Arbitration—Mrs. Hannah J. Bailey, Winthrop, Me.

女學雜誌 第二百三十一號 明治二十三年九月二十日發兌

社説

好人物

俗に「人がイヽ」と云ふとあり、或は解して「ヨイ人」と云ふ。抑そも玆に、ヨシト云ひ、イヽと云ふものは、善人の善の謂ひなるか、而して善人の善は果して好人物の好と同じき乎。吾人頗ぶる疑がひなき能はず。

放眼長察、今の社會の極めて姦惡なるを見、亦た其の極めて狡猾なるを知る、思ふて此に至る毎に慨然長大息せずと云ふとなし。滔々たる世上、人を突き倒して己を利せんとを欲し、陰險邪佞にして只管ら自家の益を計らんとするもの滿つ。世は宛から貪利の市場の如し。

中に於て、チラ／＼と微光のかゝやぐは、好人物と云ふと是れ也。云はく今の時世如此き人なし、斯斗りに情け深き人なし、斯く迄に信切なる人なしと。吾人その風評を聞く毎に、シバの女王がソロモンを慕ふが如く、到り就きて其風采を望見せずと云ふと無し。

あゝ、世の好人物とは如此きもの乎。」彼れ至つて涙もろし、其言温柔極めて親しみ易し、望み見ればホトケの如し、其行ひを察すれば柔弱なる女性に似たり。未だ嘗て悲憤慷慨したると聞かず、亦嘗て烈怒奮立したるとあるを見ず。惡人の惡を見て之を惡まんよりは先づ愍みを催ふす、然れども善人の善を聞きて左程に珍重欣喜するとなし。人の委賴を受けて水火怒濤の中に入りたるとあらず、左れど賴まるゝときは一切斥ぞくると能はず、大抵の事は荒まし承諾し、可なりの盡力を爲す。左程に惡くむ所ろの人なく、亦た酷だしく愛する所ろの人もあらず、博愛汎ねく行渡り淡きと水の如し。小問題に接するも之に贊成し、大問題に接するも亦同じきほどに贊成し、未だ嘗て猛烈震動之れに大反對したるとあらず。喧嘩には仲裁し、競爭には見物し、常に爭ふとなし。商賣には莫大の損益を爲さず、仕事には重大の責任を負はず。万事を輕々易々笑々樂々の間だに滑然閒成し了せんとを欲す。此を以て非尋常の人傑あるとき、荊棘を拓らきて招引せざるが如く、亦た奇しからぬ惡人あるとき、艴然怒つて之を退治するとを爲さず。又此を以て、風潮に逆らつて大正善の事を主唱するとなきが如く、至つて惜むべき美事の沒せんとするをも

引とむるとなし。要するに、大聲疾呼せずして、喃々曉々し、怒るとなくしてぐち〳〵と笑ひ、憂憤慷慨の爲めに涙を湛へずして、あわれつばき事に眼こを赤くす。もし人を殺すとあらんとき、彼は短刀を以て突き殺ろすと能はず、目をねぶりて無煙無響の小銃を發たんとを欲す。もし人に談判するとあらんとき、口角泡を飛ばすを欲せず、手帋に長々しく因果來歴を叙して周到辯解せんとを欲す。切に之を言へば、改革者にあらずして保守人なり、英斷家に非ずして調和者なり、烈火凛氷の人に非ずして、生ぬるき微温湯の人物也。

如此き人、好人物ある乎。」其何事をも爲得ずして人の厄介にあり、自己獨立せずして他人の事に世話を燒くの類、何を以て人物の好きとを許するや。或人は云へらく、彼は盗人を爲たり、然し乍ら一個人は好りし也と。又或は云へらく、彼は不義理を爲たり、然し乍ら元來は好人物なりと。夫れ、不義理を爲すの好人物、盗人を爲すの善人とは抑ても如何なる人物ぞ。もし義を爲さずんば善人に非ず、惡を爲さば明らかに惡人也。道二つ仁と不仁と。もし仁に居らずんば不仁なり、不仁に居るものは則はち仁人にあらず。經に云く集めざるものは散らすと。此にして而して彼れたりと云ふとは、未だ嘗てあらざるの理也。

世上凡俗の道徳すこぶる大道を誤まる。俗評、かの弱人物を見て其弱行を寛假す、之を以て人の大道に進むと至つて遲々なり。見よ、天は一樣に雨を降らす、然れどもソドム、ゴモラの上には亦火を降らす也。神罰昭々少さかも許すとなし、其嚴然たる規律は毫末も假さず、以て其の仁慈の洪大著明なるとを示す。然るに弱人物、弱人物の弱行を評して之を大目に見すぐし、更に涙を落して之を憫れむに至り、善惡を混淆して、仁不仁の境界を曖昧にす、之が爲めに人性進達の道を妨ぐると少小にあらず、愛なきと何ものか之に越えん。

エメルソン云く、現世に於て賞罰明ならずと云ふものは、道徳の罪人なり、古來惡を犯して未だ嘗て惡果を得ざる者なし、善を爲して善効を受ざるものあらずと。之れ所云る報酬因果（カムペンセーション）の天理也。世の道徳を敎ゆるものは、人に深く此理を感銘せしむるとを要す。善惡の區別を模糊にし、賞罰の果を闘得にするほど、人を弱くするものはあらず、而して人の弱はさほど惡に陷いり易き者はあらず。人をして善ならしめんとを欲せば、先づ之をして善を善とし惡を惡とするの資性猛剛凛然たらしむるとを要す、而して善を守つて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

は死すとも變ぜず、惡を見れば大山と云へども蹴倒せんとするの勇氣なくんばある可らず。苟も人をして玆に到らしめんとせば、父は日本舊幕の武らいの如く、母は古しへスパルタの婦人の如く、涙を飮み、情けを割きて、嚴然規律を正しふすべし。之れ大いなる愛なり。

故に今の所云る好人物と云ふものは、實は好人物にあらず、弱人物と云ふ者也。弱人物、安くんぞ善ならん、寧ろ惡に近づき易し、故に弱人物は更に惡人物と云ふとを得べし。果して然らば、好人物を稱して「お人ヨシ」と云ふは不可なり、須からく呼びて「お人わろし」と云ふべし。ヨキ人にあらず、惡しき人也、何んとなれば、彼れ善を爲さず、反つて惡を爲さんとすれば也。

吾人は固より彼の邪佞姦惡の人を嫌ふ。亦た彼の偏僻固陋として、局量狹小、たゞ怫然憤然とするとをのみ知るの我儘物を好まず。然れども亦た優柔々々、不斷軟々として、大英氣あきの俗稱好人物を賞むるとなし。希ふ所ろは、善を善として之が爲めに一身を擲つに至り、惡を惡として之か爲めに身を殺すに至り、社會を改良し人世を益せんが爲めには、舊慣をも風習をも塵芥土砂の如くに散亂壞混せしめ、左る必要なき事柄に對しては温平愛然樂々として安穩平易ならんとにあり。即はち、大問題に對しては烈火の如く、大責任に對しては怒濤の如く、人情愛恩に關はりては美人の如く、止を得るの事柄に向つては幼な兒の如くあらんとにあり。一言すそに、クリストの如く、威ありて而して猛ならず、嚴にして而して温たかく、強くして而して情けあらんとを祈る。

今の日本に惡人多し。其たまく善人と云ふ所ろのものに接すれば、多くは所云る好人物なり。斯る好人物は人形の天神に似たり、美なりと云へども活人間にあらず、役に立たざる也。之れを善なる人の理想と爲さんには、善人いつ迄も起らじ。善人いつ迄も起らずんば、惡人長久に消えじ。それ大日本を何如んせん。

"Be not simply good, be good for something."

下宿屋

（中）府下の下宿屋

下宿屋に要むる所ろ重大なるに、其實況を覗ひ聞くときは、殆んど喫驚すべきほどなり。苟くも心あらんものをして今の

東京に多き下宿屋の有樣を見せしめば、憂ひ禁ずると能ふまじ、若眼ある人をして之を見せしめば、涙とゞむると能ふまじ、假に在地方の父兄をして之を目擊せしめよ、彼等は一刻寸間と云へども、其愛子愛弟を如此き魔界に放置すると必ずや莫るべし、但だ其の然しむるは、之を目擊せざるによる、目亦だ見ず、故に涙ありと云へども揮ふとなし、情ありと云ども、動くことなし。實見せざる者は、二九の淑女に異ならず。

然れども、其實况は眞とに意外にして、到底門外漢の得て想像すべき所ろにあらず、何如に貧賤困苦にくらす人と云ふと云へども、今の下宿屋の主人ほどに、食物に冷淡殘酷なるもの恐らくはあるまじ。一書生、吾社に寄するの書に云く、

實に〱驚ろき入るの外無之候。とても家元母親の側にある時と同じからざるは勿論に候へども、斯迄とは中々に思ひ測らず候ひき、三度々々の食物の品に付きては、更めて言はず、只管ら御推察を願ふのみ。何如なる野菜も快ちよく供へらるれば八珍に優る味ひすれど、下宿屋には假令ひ山海の珍味ありとも冷茶一杯にだに及ばず、况してや其品の悪しきは、金錢不相應にて、凡よそ食料の過半は丸々奪ひ取らるゝ心地し、われ金を拂ふて食ふにあらず反つて彼に食わるゝの思いたし候。温たかき飯は特更にじわつき、冷へたるは掻き集めたるの殘りなるべし格外にパラつき粒々ザク〱たり。たま〱肴あれば特更に燒き足らず、心地あしければ、茶漬にてすます、香の物、倘ほ足るとなし、而して餘せし肴は再たび燒かれて恰かも好く家内の食料となる。茶は一週、一度新らしきを煮出し、大藥罐にてぐつ〱沸したるを取りおき、日々白湯に加味したるを飲ませらる。日々三度々々つねに食事すれば、もてなし悪ろく、たまに外にて辨ぜざればあしらひ殊の外宜しからず。少さか時を後れて歸れば、お仕度は？、との問ひ、すでに「濟せしあらん」との注文にて睨まる、何如に無頓着なるも、成るべく外にて濟せたしと思ふに至る。客ありて食事を命ずれば評判至つて宜し、來客頻々として牛肉、酒、卵などの注文多ければ、上客として過せらる。謹直勉强にして靜かに讀書のみすれば、一二ヶ月にして故なく斷はられ、下宿屋より退去せらるゝとあり。手づから買物し來ればエラ相になきゆへ、家の下婢に之を命ずるの習慣あり、十錢の菓子は六七錢しか買ひ來らず、二十錢の車代は大抵三四十錢につけ掛けせらる。炭油も自から辨ずるは不都合なれ

ば宿に頼むを常とす、頼めば、油代として月に三十錢炭代として六七十錢を取らるゝとあり、一圓の炭油を遣ふは元來不容易のはづに候。金を多く取らるゝは至つて殘念に候へども、もし其宿の人にして信切あらば、府下に家なきの私供、之を賴母しきとに思ひて少さか慰さめもいたせど、下宿屋は金を取るのみにあらず極めて下賤殘酷のものにて寧しろ恐らしきほどに候。夫のみか、大ひなる下宿屋にては代言用の書生一人、美くしき娘風の女一人を置き、金あるものは娘にてたぶらかし、金なきものは書生の訴たへにてハタリ取り、少さかも容捨なし。主人は鬼の如く、下宿人は敵の如く、日に〳〵計略をやりとりして爭ふの樣のみにて候。固より愉快とかホームらしきとか申すとは毫末も無之候。其上、隣室の生くら書生遊ぶのみにて金を遣ひ、たび〳〵無心に來り、貸せば囃め立て、貸さねば嫌味千万を並べ立て候。向ふの室には、女書生二人下宿して、隣の書生と淫らなる話しのみいたし、時々私しの部屋の神聖を汚さんとして不快言ふ可らず候。而して下宿屋の主人は、かゝる事の有がちを喜んで、とかく下宿人の放蕩するを待つやうにて候、だん〳〵伺ふに、かゝれば金を遣ふもの多きゆへと申す、恐ろしきとに候。奥の部屋に、醫學校の書生三人下宿いたし、毎夜のやうに月琴の音きこゆ、其靜かある時は朋輩のさそひにて何處へか出かけ一泊いたし候、此三人は當下宿屋第一の上客として珍重せられ候。貸本屋の往來はげしく、向ひの氷水屋、其のとなりのパンやは、嫌になるほど追從してわれ〳〵に近づきを求め、時々行てやらぬものは、何にかと惡口せらるゝよしに候。かゝる有樣ゆへ、金を使はねば巾のきかぬやうにあり、小使ひの入ると驚ろくほどにて、其上月末の書付を見れば、下宿料の外か意外の書出多く見え候、然し一々問質すは野暮の骨頂と定まり、此社會にてはサッサ〳〵と大業に拂ひを爲し、少々のツリは取らぬとと相成居候。かゝる次第ゆへ、下宿屋のくらしは少しも面白きとなく、日々不快にて古鄉の天のみ慕しく候。又自分金鐵と思へどいつ迄も田舍風にては居られず、もしや此の惡風に染まるともやと、今更ら掛念せられ、われ乍ら恐ろしく又心配に候、何卒眞法御工風、御敎示被下度候、………

讀者、とは實際の申條なり、たゞ其文言一二を削づりぬ、願はくは再讀、又再考せよ。

雜録

薙刀術

青山宗司

一　何如なる運動法を採らん。

青山君、日本女子運動法を細論せる一小册子を惠送せらる。前后終始ともに有益の文なれど、紙上狭くして悉く之を全載することを得ず。故に、初段、日本女學生の追々弱く成り行くを慨くの章、目今女子運動法の不完全を歎ずるの章、運動に必要なる要素二つ即ち身體總部を發達すべき事、快樂を與ふべき事、の二條を欠くまじき論の章などを除き、敢て割愛して只だ其殘りを掲ぐ、(編者白)。

然らば吾曹は如何なる運動法を採ぶべきか、吾曹は只だ眼を古來より傳來せる女子薙刀に着せんとす。何の故に然か謂ふや、希くは姑らく吾曹が忠言を吟味して、後其が是非を辨ぜられんことを。

世人は薙刀と云ふを聞きて忽ち言はんとす、夫れ薙刀は昔時の武術にあらずや假令へ古來女子の從事せるものなりとは云へ之を以て今の女子運動法と定むるに於ては恰も是れ曲を矯めて直に過ぎ孱弱を矯せんとして粗暴となすにあらざるを得んやと。世人をして此言をなさしむるものは蓋し先づ其の薙刀を目して他の武術に於ける試合の如く想像するが爲なるべし、然り若し左樣荒々しく且つ危險なることをなさしめなば到底女子運動法として見るに足らずといへども吾曹が此に述べんと欲する者は全く然らず。最も優美にして且つ最も愉快なる薙刀術の形(カタと呼ぶ)を以て之に供せんと欲するあり。形は何れも自他の身體を撃ち合ふものにあらざれば、寸毫も粗暴と危險となきは勿論、從つて鎗劍道の試合の如く武具を着し、柔道の如く稽古衣を着する等の煩、且つ殺風景なることなく、女子の風儀を損する等の事に於て毫も憂ふるに及ばず、彼の艶々たる長袖を布くも可なり彼の妖々たる翠翹を戴くも可なれば也。

二　薙刀の形。

且つ夫れ形は古來より薙刀術の精華を摘集して常に自在の運動に慣らしむるの法に編成し專ら女子に適するよう錬磨したるの法術なれば他の武術に於ける形とは異なり、法術頗る優美を極め一上一下の美妙なる進退伸縮の自在なる之を正評せば實に剛ならず柔に流れずと云つべきか、眞に神變至妙の法あり。世人は彼の踊を指して優美といふ然れども彼れは已に淫に流れぬ此れは全く其趣を異にして反つて彼れに超越するの優美ありといふべし。(こは過賛に似たれども決して然らず、勿論同術の流義に依りて千差万別あらん、故に吾曹は其粹と認むるものゝ有樣を記せり)。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

三　薙刀の形の功益

薙刀術の形は自在運動の能力を與ふるの効あれば身躰各部の等動は言ふに及ばず能く快味を與へて運動中最も高等なるものなり、大概ね踊に類すれども然かも整然たる秩序あり、其優美にして微妙なるの法は一見人をして恍惚せしむるに足るといひて可なり。且つ此術を講ずる者は何れも二人を以て一組となすものから各々其技を競ふの念を起し頗ぶる刺激多し又形の躰其數幾多あるを以て(此れも流義に依る)各其順序を追ひ愈々快妙なるの術を得んと欲するの念は能く厭倦の心を制すべければ少しく之に注意を加へなば完全なる快樂を維持するに足るべし。加之此術は古來より婦女子の修めたるものなれば決して習慣前例なしといふべからず。且つ此は何れも家屋内に講ずるを常とすれば他人の見物するを防ぎ其が時候の變換晴雨風雪の日を擇ばずして講ずるを得べきあり。然り而して此術は女子身躰の強弱を問はず自由に行ひ得べきの方なれば一人として過劇に至らずして止むとを得べく、且つ又其が敵師は勿論女子にして之を誘導すべく能く女子運動法の要點に叶ふとを得べし。

されば女子運動法の目的要素等は一として此に缺くる所なしと謂ひつべく、且つ呉々も粗暴の擧動等女子に不似合なる事は決して起るべからざるは理論上に於ても證すべく實驗上に於ても證明し得る事共なり。吾曹をして全躰に之を評せしめば具に最上秀逸なる女子運動法にして極めて女子に適切なる方術といふ可し。

加之其利は、躰操の不自在にして且女子運動法の目的要素等に適はざるの法に比すれば雲泥の差殊更らに云ふ迄もなきのみならず、薙刀術は太古より傳りたるものから之に從事し之を喜ぶに至らば自ら國風を尊ぶの心を生じ從つて愛國心を煥發せしむるに足るは論を俟たず。此の快活なる運動によりて泰然たるの氣力を鼓舞し温和優美の中自ら沈着たる神心を涵蓄せしむるの傾向あると又實驗に尋ねて知る處なり。

四　修身上の益

夫れ武術は古來より死生を爭ふの藝術なれば平常之を修業するにも大概ね死生を爭ふの心組にて對合をなせし者なれば、之を講ずるの前後に於て必ず恭謹なる禮式を行ふは自然の勢なり。而して薙刀術に於て其形を修業する時は殊更に此禮を重んずるの風厚く成行けり。此は女子の修業する者なると、又此形にて禮讓恭謹を重んぜず獨り勝手我が儘に行はんとす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れば到底形といふ者は成立たず亂暴となり随ひて心をして愉快の境に導くの栞を失ふとに依ればなるべし。且つ薙刀術にては教師は弟子の手を取りて親しく之に其法を教へ叮嚀を以て之を教導するものなれば師弟の間自ら親密にして禮義其中に備はり從ひて朋友の中も其情愛の密となるは勿論其中にも技の長じたるものは自ら未熟の者を誘導するの傾向を生じ長幼の序を深く心裡に印するの功能あるべし。固より文明の婦人女子は自ら禮法を會得するとは云へ時に此練習を復すると豈唯徒勞のみならんや。

女醫荻野ぎん子女史を訪ふ

生野ふみ

荻野ぎん女史は日本開業女醫の率先者なり、一日閑を得て女史を下谷西黒門町廿二番地の居に訪ふ。女史の家は通りより少し入込たる處にありと雖も戸外幾間を隔てたる處に掲げたる婦人科醫師荻野ぎん子てふ標札によりて、容易く求むる事を得たりき。女史は、

年齢三十二三歳なるべし

其如何にも沈着ある態度と言寡なき挨拶ぶりは人をして一見老練の女醫伯なりとの感じを起さしむる事あるべし。女史が初めて醫學に志されしは明治十二年の事にして開業されしは仝十八年なりといふ。予は先づ女史に開業以來の經歷を問ひたるに、女史曰く何分日本には女醫てふもの絶てなかりしを以て妾が開業したる時には同じ醫師仲間にても又病家にても殊に注目されたるを以て他へ往診する毎に恰も試驗に出合ふ樣なる心地せり然れ共日を經るに從て左樣なるとなく遂には別段女醫たるが爲に何々といふ感想を自他共に起さぬとぞありしなり只今日に至つて獨迷惑に思ふは初めての病家へ到りたる時其家の下婢迄も大變珍らしそうに病室の側に來りて覗き見る事にぞある妾は別段搆はねど無病人はうるさき事なるべしと思ふ耳是未だ女醫の少き所以ならん乎。

予問ふ日本の社會にありては今猶婦人は概して男子よりも價値低きものと見做され居れば女史が醫業を營まるゝに於ても御婦人なりといふを以て人に信ぜらるゝ事遅しといふが如き不利はなき乎。女史曰く然り最初は多少左樣の氣味もありしやうなり然しながら既に病家にて診察を乞ひに來る以上は素より其の人を信じて來る譯ゆゑ其處に至れば女醫なればとて信用上男醫に比して不利不益なりと感ずることはなし。次に予は女醫の必要は那邊にありとせらるゝ乎と問ひたるに女史

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

曰く女醫は

婦人科小兒科

にして始めて其必要を感ぜしむるものなり元來婦人病といふものは十に七八は身躰の下部に關する病なるに一般婦人の性質として或る局部を他に見らるゝ事は男子よりも深く之れを厭ひ憚るものあり故に疾病の性質に依りては久敷其苦痛を感じながらも猶且男子の診察を經るとの厭はしさに躊躇逡巡しつゝ遂に不治の症に陷る者多く見聞する事共なり殊に妙齡の新婦などにありては艮しや自身は忍んで其診斷を受けんと決心するも其夫の意思如何を憚りて遂に不言に付する事もあるなり此際女醫なるものある時は幾分か厭ひ憚るの念を減ずるを以て容易く治を受くるに至るべし小兒科には男醫と相違する所はなけれ共診察を行ふ上に於て女醫は餘程便利なり其は小兒の性兎角男子よりも婦人に親しみ易きものにて殊に髭などの生へた怖らしき顔の男子を見る時は往々にして泣出し遂に診察をなし兼ぬる場合もなきに非れば婦人の柔かき手もて之れをすかし慰めながら診察する方容易ならむと思ふなり。倘ほ一々申さば他にもあるべけれ共妾は實驗上此二ヶ條をこそ女醫を要する切要點なれと思ふなり云々。次に予は問ふ近來醫を女子に適する職業なりと云ふ説と女子に適せぬ職業なりと云ふ説と二派に分れたるが如し女史は實驗上如何に思惟せらるゝ乎。女史曰く其不適當といふものは

家政上並に夫婦の關係より論及したるものなるべし

妾は獨身者なるを以て未だ家政上に大なる不都合を感じたる事はなけれ共艮人ある女醫に至りては隨分困難なる事もあるべし例へば深更にても病者の招きある時は之れを辭する譯にもゆかず又今艮人が他より歸り來りて妻の慰めを要するといふ場合にも急患者あれば空敷病人を待せ置く事も出來ぬあり故に能く流行る醫師になればなるほど疲れたる艮人をも泣く兒子をも打捨てゝ外出せねばならぬ事となるべし左れば若し艮人の慰め手を以て本務とすべき婦人ならば其都合如何あるべき乎。但し艮人の扶け手を以て任ずる婦人ならば隨分適當の職業なりと思はるゝなりと。

倘尋ね度事もありしかども時候柄久敷其足を止むるも余りに意なきわざと思ひしかば匆々にて辭し歸りぬ。女史は素と東京女子師範學校に在り最と早く業を卒へ目下東京婦人矯風會風俗部の部長として頗ぶる社會改良の事に熱心ありと聞ば、女子教育上及矯風上に就ても定めてさま〳〵の意見を有たる

九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ことあらむ夫等の事は他日再び女史を訪問して更に讀者に報ずべし爰には只其女醫としての談話のみを伺ひ記しおきつ。幸に諒し玉へ。

○海に遊ぶか山に遊ぶか　天知子　方寸子　閑對話

天知子他愛なく方寸子と涼風の中座を別け無頂天を眺めて談笑す、天知子洒々として問ひけらく山と海と君何れに遊ぶを好めるぞ、方寸子膝を抱に眼然微笑みの眼鏡を蒼天に走らして答ふらく、凡そ物の存在する各其必要ありて存在するなり其存在する必要より観じ來れば凡ての物好からざるなし、山遊ぶべし海遊ぶべし、天知子曰く善し、されど天の人に賜ふ所各異なり性質に由り自ら好む所なからんや余れは先づ山を愛す、思ふに

靑年の性として

當然の事ならんかな、方寸「一人間としての理想よりせば余れは山色水光の幽を好む、されど一靑年として考ふれば海こそ至當の愛物ならん歟、否愛されはならぬ也、海は動搖變化極りなくして靑年の活氣あり山は靜止沈着定りきつて老成人の風あり、故に一は英雄風のグレートを出し一は君子風のグードを出す、一は磊落一は朴直、一は改進的一は保守的、一は辯に能なるもの一は辯に訥なるもの、一は積極的一は消極的、一はヘッドの壯大一はハートの優温を出す、勢ひ斯の如くなれば海の性は靑年の最も好む所否好まればならぬ所のもの、其得所を助長して導化するに好からずや、天知「言ふ所惜からず說く所好し、左れど靑年は英雄を崇拜し易くして粗暴に失し、磊落は放縱に流れ、改進は急激大早計に走り、能辯は輕薄に陷き、積極的は狂奔に敗れ、壯大は空想に惑ひ行く事多し、何ぞ愈々之を助長して其弊を促す事あるべきやは、宜しく靜かなる物に接し化成して以て短所に得まくするこそ宜けれ、方寸「海をパーソニファイせしものは靑年の特質なり、山をパーソニファイセーものは壯年の特質なり、壯年とは成人の謂なり、果して然らば將來の壯年たる今の靑年は將に海の境遇に適中し居るものなり、此の境遇に練習してこそ初めて成人するを得るなれ、コヽ義經の八艘跳びは許さぬぞよ、况んや患難危險蹉跌失敗は人間を殺すものにあらず却て生すものにてあるなり、蓋は患難は忍耐を生じ忍耐は練達を生し練達は希望を生すれば也、然るを君が、靑年の天性は海に適す左れどコヽ過失の多ければ不可なりと申すは恰も君子は危きに近寄らずとて行く可き道を行かざるに似たり、君よ今の日本の靑年を見よ、彼等は海の境遇を經ずして先づ山の規則を氣取る、彼等の理想は如何に卑近なるよふ、彼等の魂膽は如何に狹小なるよふ、彼等の老成振る實に憫むべくも笑止の至りなり、斯くて滔々小老成人、小君子小英雄、小才子を製造するとは、勿論一理の存する所一害の潛むなれば可成は危きに近寄らざる君子策も好らん、患難危險の如き可成は敬して遠ざくる濡手で粟主義も好らん、されど患難危險損失失敗に遠ざかるは容易安全利得成功に近寄らんが爲なるを知らば、縱令一失あるも百得を忘るべからざる也、アー靑年の時代は練磨の時代なり、練磨の具策は海と同化するにあり、宜しく自由に任かせ自主に放ちて熱血を沸騰せしむべし、凹凸合して方に歸し、動靜治りて平に復す、ソンナニ心配したものにあらずとよ、天知「尤もの快辯ぞよ、君も亦海より產れたるの人なるかな、日本は能く日本の人を產む、日本の人能く日本を安んず、日本の失ある所又得所なからまじかは、德は山に出で才は海に出づ、仁は山に起り智は海に起る、今の靑年仁なし德最もなし。彼れ語りて洒落たり此れ聞て沈默たり、方寸「然り、さらば一歩進みてむ

現今日本のクリスチヤン靑年

としては如何、天知「面白し、是れ當山なりと申す、彼等は浮氣の浮に眠り、多く儀式に安んじて偶像を再び拜するの域に陷り辨論を以て信仰を得まくす、靜に觀念し深く悟道し、己れを去り世を消して妙境に達する事乏し、局部に躊躇せずんば放縱に得たりとする者多く、沐猴さるから冠するに似る、今や宜しく維摩の室に默念し物質界を解脫するの秋なり、人靜まりて大聖に近づく、山靜かにして太古の如く森林寂として無我界に似たるべし、自然に接して俗塵を去り而して自然を悟る、之れ山ならずして果して海か、方寸「さなり、然れども其靜思默考せんと覺悟せしものは既に上乘に達せし者なり、彼等は未だ其境に達せざるを如何、蓋し疑はざる者は信ずる能はず、罪を感ぜざる者は濟を知る能はず、無常を感ぜざる者ば天眞を悟る能はざる也、余れ怪疑に迷へばこそ信仰の安を求むるなれ、余れ汚濁を厭めばこそ淸淨の仙を慕ふなれ、余れ無常と果なめばこそ天眞の悟を希ふふれ、彼等ベルゼブルを惡むの念深からずしてエホバの聖德を讃め、ソドムゴモラの汚濁を知らずしてシオンイデンの高潔を讃ふ、覺束なしと云はんか、然り彼等は未だ山を慕ふの度に達せざるなり、况んや田舍の君子京歷に染みて墮落し專念の佛者圍編を離れて俗歸するが如く、閑澄幽邃に於ての修養は塵埃塵俗に於ける之れに比して脆ろきこと非常なるを思はゞ、先づ兎も角も洋々茫々變化無常の海に養わざる可らざる也、靜は動に反しての名ならず動く時既に靜ある也、靜を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

知らんとせば宜しく動を知るべきのみ、天知「彼等果して然りしよな、靜極まりて動、動極まりて靜、動中靜あり靜中動あり、靜は動かざるの名にあらず、君の言ふ所又宜し、唯山に考ふる人、海に念ふ人、共に上乘下乘に由て異なるか、願くは進んで

今の女學生として

考へん、方寸「肉ありて男女あり、肉離るれば無差別なり、されど男女として見れば各異なるものあるを見る、夫れ一般の女子は沈鬱なりと或は然らん、左れど今の女學生を精細に識別せば羞かしがる割りに優しさを欠き、快活なる割りに愚痴多く、行儀好き割りに莊重の德少なく、ソリチュードを愛する割りに默禱の仙を慕わぬも多からん、人婦人を評して美の化身なりと賞せり、同胞に加わる月桂冠嬉しくは思ふ也、されど眞正の美は嚴肅のものなりとよ、願ふは沈着莊重優溫などの彌增し加わらんことを、左れば海に遊ばんよりは山に遊ぶべし、天知「好し大に余の志を得し事よ、女子の心意は感應に鋭く智力に鈍し、故に一度走れば脫兎の如く脚下を考ふるに暇あらし、輕く飛び境なく馳せて天職を考ふる事能はざるが性とよ、之れには山の意氣込みにて導化せにやならぬなり、山は海の固形體なり變化極りなき波頂濤底を其儘見本の如く現はして靜かなり、女子の浮氣躰に飛び若しくは流動躰に流れ易きものには峻嚴なる固形躰をもて化育するこそ至當ならずや、余れ唐詩選を枕して武陵桃源を夢る時余れ何故山に生れざりしやを懊む、方寸「アヽ、聞けば君は品川の近くに生れたりしとな、天知「アヽ聞けば君は越の山奥に生れしとふ、ヘーア、山に生れて却て海を好み海に生れて却て山を慕ふ、これも合性の然らしむる所以か、方寸「君老翁風つて山を採りしが故に余れ青年とふりて海を採りしのみ、斯く言ふ余れは今迄の余れにあらず、山何の勝るある、海何の勝るある、山遊ぶべし、海遊ぶべし、玉くしげ二見の浦のしめなはの二つの岩にかけや渡らむ、天知「アー面白るの言葉かな、余れらタイムを離れスペースを離れて團又欒、知らず此無我界に逍遙しぬ、實に悟つて見れば色即是空平等無差別と如是我聞。語り畢て相顧みたり、相顧みて微笑める時、靈山に嘯く風、成就院の塔頭を撫でおろして淸涼目にも見ゆ。

撫象子評。全篇を貫ぬきて佛氣吹き通ひ至つて抹香くさきを惜しむ、其他は頗ぶる幽靜にして時弊を穿つ鑿々、極めて面白く覺ゆ、佛說は甚はだ曖昧なもの也、但だ其文字の空々漠々たるを以て人奥床しく思ふ、一と度び戸張を剝去れば惘然々々。二子よ公等もし其趣きを愛せば、論事矩に接して尙ほ其健を失はざる、喩へばエメルソン、カーライルの如く幽大なれ、われたゞ之を要む。

印度の幻術者

フランセス、ウイラード女史

ブラヴァスキー女史を訪ふ（下）

時に大佐ヲルコット氏來る

氏は知神術を研究して高く名あり、氏妾等の側に坐し、其信ずる所を打明けて語りぬ、氏云ひけらくエッヂーの兄弟の事につき觀察せる所如何と問はる、今少しく述べん、是即ち余（ヲ氏）の信ずる眞理なり、彼等は、心靈上と肉躰上と一種天然の吸引力を與へらる、彼等の母は卓識遠見にして父は其幻術を行ふを禁ぜり、如何にして彼等が唯物說を信じ物質の力を用ゆるか、余之を知らず、察するにエッヂーの心意恍惚たる時心中の鬼神出てゝ他所に至るか、若くは宇宙に物質が存して彼等の心意を動かすなるべし、斯く不可思議の秘法を行ふ、されど彼等の德義地に委し、余は共に齒するを好まず、更らに彼等の秘法に秀て、且精神術に勝る所の一法を案じぬ、余は精神術を研究する此に二十二年、されど精神術家多くは不德不義に流れ、彼等此に甘んじて速步を求めず、余は之と共にするを好まず、別に一步を進め、一頭地を顯はさまく望みぬ、

ブラヴアスキー女史余に貴き教訓を垂れ給へり、女史曰く多くの秘術世に行はる、而して未だ知神術者の說明し能はざる現象多し、是れ東洋哲學に依らずんば說くべからず、東洋人は數千年の往昔既に此深奧の哲理を悟れり、故に余等西洋人は愚蒙暗昧なりと。女史屢云ふ、余は古代の宗教、文字、記號等を研究して宇宙間に存する妙力の未だ解得せざるものを說明せんと希ふ、更に問を發してさらば、

何ぞ斯る秘術を世の學術家が等閑に附するや、

と問ひぬ。偖とよ、他に一層學術者の注意を惹くものあり、彼の秘術は學ぶに難くして人の望まざる所あり、蓋し之を學ばんとすれば高貴の位置と許多の財產なかるべからず、余は今日迄に余の終生の生活に用ゆべき金額を費しぬ、余は嘗て一萬弗を一時に費せり、人或は之を見て狂妄の極と賤しめん、されど余は之を學びて未だ絕たず、余は余の心意と肉躰を天然自然の法に符合せしめんとす、彼の秘術妙技に達せんとせば必らず幾多の困難を經るを要す。ブ女史余の師たり、女史の教訓は萬卷の書物より貴く、他の師友知人の教訓より重し、余は今酒烟を絕ち、不德の行を止め、只管德を修む。妾等此に於て問ふを止め、ブ女史に別辭を述べて立つ、大佐燈火を手にして廊を送り下る、步を移して門を出でぬ。

離婚の事、是非如何、

碓氷山人

離婚に關する世論今尙亂糸の如し學者社會に在つては學術的に是非を論じ、宗教家は宗教的に曲直を究む。某橫字新紙離婚に關する二種の說を題して短文を掲ぐ、左に譯するは即ち是なり。

二種の意見

近代社會の狀態に依つて離婚に關する見解を一定し得べきや否てふ問題あり、チャップマン嬢之に答へて云へるあり。

第一　離婚許るす可からず、決して許すべからず、天地の萬物、自ら離婚の可ならざるを示す、青年にして一度嫁すれば老朽永遠まで離るべからざる事自然に明けし。

第二　人類の天性よく離婚の不可を示す、人蠻野の時代を去る愈遠く進化益高きに從つて離婚の不可を認め、一夫多妻に伴ふをわしゝとなす。

第三　試みに史乘に照して見よ、離婚多き時代には必らず人類が放蕩惡習に流るゝの世にして必らず人心敗れ、社會亂る、文明史の本色は一夫一婦の制よく行はるゝに傾くの歷史あり、即はち一男一女に伴ひ、一婦、一夫を友とするにあり。

第四　學術よく其不可を說く、哲學と云ひ、社會學と云ひ、生理學と云ひ、皆同じく離婚は不可なりと云ふ、殊に社會學を見るに人類は不完全ながらも常に一夫一婦の制に傾きつゝ進むと說くを見る。

第五　今一身に顧みてよく見聞經驗せし所を思ひ見よ、離婚不可なりとの思想容易に腦裏に浮ぶに非ずや、思ふに離婚す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る事能はずとの制あるに至らば世の夫婦の間大ひに今日より幸福增進すべし、之に反し離婚容易なれば人自ら夫婦の關係を輕んず、豈親密ならしむるの道ありとせんや云々。

斯く簡短に離婚の不可を述るは余(横字新聞記者)の能はざる所なり、余もとより離婚不可の説に左袒するものあれども、是殊更に禁ずべき事あらじと思ふ、社會進み、人心其不可を認むるの時至らば自ら惡風跡を絶つべし。

ベッタニー氏は先きの説に反し、離婚可なりとの説を唱ふ、誠に極端の論なり、今左に記す。

國家社會の現状より考へて、離婚を許すと否とは何れが可なるやを思へ、一度妻を去るものは再婚を許さずとの制を設け、人爲の方法を以て離婚を禁ずると、離婚せし人は機を得て再婚し、幸福を得せしむると何れか社會の利なるべきや、過ちて適合せぬ人と婚せしものありと假定せよ、其過ちを知つて改むる能はずとせば是れ社會が結婚に關して誤謬の見を抱くものと云はざる可からず、見識淺き人間の過ちにて結約せるものを徒に維持せんとするは却て不德不義を招くものと云ふべし、今代社會の有樣は一種の人々が唱道する如く弊害甚しからず、次第に改進良歩するを見る、如何なる境遇にありても必らず離婚を許すべからずと云ふは果してよき意見あるか、人離婚を爲す、誠に幸福を增進せんが爲めのみ云々と。

アウストラリア國最始の女醫

美芳野舍主人

女醫學士ローザ、ケルシバウメル夫人之傳

(Frow Dr. med. Rosa Kerschbaumer.)

女子をして醫學の教育を受けしめ醫師の職務をとらしむることは、需用供給の理に於て實に必要なる歟、且つ彼れ女子は全く此の需用の目的に應ずることを得るや……とは一個の問題にして、吾人は實に此の問に答ふることの容易ならざるを識る、故に甲は之を論して其理あるとなし、乙は之を駁して其理なしと云ふ、然れとも一二の國に於て女醫の存在するありて、又た多少の裨益をなす、とは一の動かす可らざる、事實なり。フランス國スパニア國及びロシア國には既に女醫學士あり、イタリヤ國ルメニア國の如きは、皇后の侍醫として必ず女侍醫なる者あり、且つロンドン府に於ても凡そ七十人の女醫は開業爲して醫術を業とせり、大洋を隔つるのアメリカ洲に於てはエリサベス、ブラックウェル孃、最初の醫學士を贈られし以來、今日に至りては既に三千人の女醫を見る。女子をして醫學を研究せしめ、此に開業せしむる如きは、單に其必要あらざるのみにあらずして、女子の身體を害するのものとなし之を禁じたるの國あり、アウストラリヤ國其一なり。然るに近來に至りて此所に一變動を生じ即ち墺國皇帝陛下は、女醫學士ローザ、ケルシバウエル夫人をして前きに眼科學を修めしめ、而後ザルツブルヒの眼科醫院に於て、其の業をとらしむるに至れり。

女醫學士ケルシバウメル夫人は、前のロシア帝國侍醫の女にして、全國高等中學に於て其の課程を卒へり、夫人は若き時より醫學を研究せんとするの念熾んにして、遂に醫學の課程を修めんが爲チユリヒに向ふ。然るに仝地は第一夫人の意に適せず、且つ其父は甚しき保守家なりしが故、仝地に在るところの一二ロシア學校の、餘りに急激なる進歩と處置とを惡しとし、幾許もなくしてチユリヒ國人士の社會を脫しベルンの大學に於て醫學を修めんが爲、此所を去りてベルンに行けり。同地の大學に於て孃はアルマー、マーテル、ベル子ンシス(Alma mater Bernensis)と稱するドクトルの學位に相當するところの學位を得たるが此は孃を以て其の嚆矢なりと云ふ。女は同所の大學に於て學生たりし時より、教授等に就いて臨床講義外來診察等を爲すの機會を與へられ、貧民患者に就て實地診治の術をも修業せり、而同孃が此所に其の學業を卒へて、臨床實驗の椅を去らんとするや、患者等は孃に對して……醫學士君……と稱せんとするに代へて……醫學士孃……と呼んと云ひ合へり。

孃はベルンの地を放れて、其の足をウイン府に留め、仝府に有名なる眼科の專門家に從ふて眼科を專修せり。幾許もなくして、孃は教授の最も鍾愛するところの女學生にして、最も良き助手と稱せられたるが今の夫醫學士ケルシバウメル氏とも、始めて此所に見るを得。而後此の男女兩醫學士は、意氣相投して婚姻を結び、今のザルツブルヒに居を移して此所に一の眼科醫院を起し、今日共に其業に從事す。

ザルツブルヒの眼科醫院は六十の病牀を具ふ、而醫學士ケルシバウメル氏は多く外來診察を擔當し、女醫學士ケルシバウメル夫人は入院患者を治療す、而互ひに治療を施したるところの成績數多にして、特に內障眼の手術に至りては、兩氏の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

共に得意とするところなりと云ふ。夫人は復た其業の暇あるに際しては、時々演說家として、社會に顯れ、その範圍內に於て、現在幷ひに未來學術の爲、其の說を述ふることもあり。旣に昨年ボッサルド、ツン、デメルゲル夫人の、惡ある導きにかゝる、在ウイン府女子敎育奬勵會に於て……女子の醫師的敎育幷ひに女子の醫術開業……と云へる問題に就いて、一場の演說を爲し、非常の喝采を博せり、而夫人は今日らふはザルツブルヒの眼科醫院に在りて、其の業に從事す矣。

消夏錄　其六

空峯生

○青苔露は冷かなり

知らず生れ死ぬる人何方より來り何方へか去る、と人生のはかなきを嘲ち、世のあはれを感じけんも理りあり、そは彼未だ悟る所淺ければなり、今來古往來り亦逝ける人多かるを見て人世を厭ひしも此故ありかし、青山處として白骨を見ざるなし、黑地行くとして墳土あらざるなし、若夫れ七十歲の夢消えて他に望むなくば如何に世の戀しかるらん、深山の奧に分け入り、茫洋の極みを尋ねても不死の藥ほしかるめり、至る所の冷土に白骨を見るが內に古來の名所舊跡と稱ふる所に至り、なたゝる人々の墳墓に詣り、昔のさまを思ひ見て坐ろに感深し、導かるゝまゝ分け入ればなく鳥の聲も世に似ぬ深山木の、茂みが中に來けるになん、老岩古石苔濃かにして露寒し、近づき見れば皆源氏の累葉骨を收し跡あり、皆同じ處にあるにわらねど何れも零落の狀異なるなし、或は政子の墓と云ひ、北條氏の墳と云ひ、上杉氏の跡と云ひ、其他誰の碑、彼の塔と呼ぶもの其數限りなし、一々云はんもとより無益なり、人跡何時の世にか絕はてけん、何れも見るかげなし、されど余も是を見て徒らに世をはかなみ、人を厭はんには古來の厭世者流と撰ぶなし、余豈に斯かる弊に陷るものならんや、別に思ふ所あり、今は此に記せず。

○石よりも固し望夫の心

芳樹となりて一朝の新榮を希はんか、貞松となりて千年の定操を期せんか、彼もとより美はしかるべし、されど是は殊に望ましき所、何人も同じ思ひなるべし、夫は放姿遊興、心に任せぬ事なし、婦にのみ節義を正し、貞操を責むる實に無理ならずや、と、是少しくもの知れる女子の常に云ふ所、余も少しは理ありとなす、されど夫不義汚德あるが故に婦の貞節を破るを許して可なるか、夫を正さまくせば婦愈直なるを要す、古來東洋婦女の間に一種の美德赫然存す、婦の貞操を正すの事なり、世の中少しく開け、異國の風習を聊か伺ひしとて東洋の美習德風をふるめかしとなすはもとより識者の採らざる所なるべし、松浦々上雲悠々たる所一心凝れる鐵石の思ひ、今猶口碑に傳ふ、余其眞僞を疑ふ、されど婦女の貞操を世に示さんの意なるは明けし、余鎌倉に遊び、小岳々頂に大石橫はるを見ぬ、之を望夫石と云ふ、土人其故を說ひて曰く昔し鎌倉の外城敗れ、西軍侵入せる時源家の一族之を防ぎ戰ふ、內に一士あり、其妻操を守る事固し、夫の歸り來んを

待ちつゝ彼巨石の上に立ち、戰場を眺めりし、依て望夫石と名づけぬと、想ひ見る千軍萬馬入り亂れ、左防右禦、刀光きらめき、矢さけびの音ものすごき頃、最愛の良夫、戰場にあり、敵に接するを目擊せし時、貞婦の憂愁果して如何なりしかを、余此石邊に立ち、思ひ出でたるまゝものすることかくなん

岩かねの殘らんかぎり世の中に
君かみさほは朽ちやはてまじ

○古木僅かに殘る白旗山

望夫石の西方に白旗山あり、亦源氏山とも云ふ、馬蹄の至る所草木色なく、白旗翻へる所萬民靡かぬくまなく、手を擧ぐれば雲起り、手を覆せば雨となりける源氏の威光思ひ見らる、昔し義家東夷征討の師を率ひ、此山に至り白旗を高風に擧げて、盟ひけり、日を重ね月を閱し、遂に東夷を滅しぬと、是亦此名ある所以なりとぞ。

○寂々、寥々

物榮えて衰ふるは素より尋常の變なり、怪むを用ひんや、佛道大勢を極めし西の都の大寺巨院すら思ふに昔日に比すれば盛衰榮枯天地の差あるべし、ましてや訪ふ人少なき鎌倉に於てをや、零落せるは至當の事のみ、所謂五大寺と稱するものとて規模甚だ小にして衰運明かに認め得べし、其他の小寺院の如きは云ふも更らなり、余は常に云ふ、神社佛閣の壯宏美麗なるは西都に如くなし故に西都にて見ば他は云ふに足らずと、今鎌倉に遊び、愈余の言の當れるを見る、何處の寺院に詣るも寂々寥々、屋破れ、壁落ち、荒廢遠からず佛道亦衰へたりと云ふは非耶。

○雛を捕る犬

鷄犬の聲と云ひ、慣るれば仲好くして戲むるゝ迄に至れど、初めは殆んど敵同士の如し。其直し方に付き牧畜雜誌は云く、犬には往々雛雞を喰ひ殺すの惡癖あるものありて家禽家はこれが處置に困ることとなるが、この害を防ぐの第一捷徑は其犬を殺すにあれども、或は撲殺し難き塲合もあらん。さる時には先づ犬の喰ひ殺したる雛を以て劇しく犬を打ち、それより雛の兩足を犬の頸に跨がらしめ落ちざる樣に緊密に結び付け、かくして二三日間その儘になし置けば、犬は其の煩はしきに堪へず、厭倦の餘り遂に雛を喰ふの癖を絕つに至るといふ、一寸面白き法なればその道の人は試み玉ふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

涙滴々

「さつき」と云へる人、美はしき愛てふ一節を寄せぬ、左に掲く。

ある人其約束せる妻の事に付き書送り來りし書中に、彼を愛するがために彼我を愛するか、我はその愛を欲せざるなり、彼我を慕ふ我が言論か、我が學術か、我が擧止動作か、我が富か、我が名聲か、もし然らんには彼我がもてるものを慕に在て我れを愛するに非ず、我は我が靈を愛し我が靈を慕ふの人を欲す……彼れは眞とに我を愛する者にて我が苦しめる如く我ために苦しみたり。その書中に左の言あり君に示す請ふ秘してあらはす勿れ。

私が君と共なる事を得たならば如何なる苦しみも忍び得べしと存候、もとよりこの世の富などは御仰の如く望は無し名聲などを得んとは思はず却てこれなきこそ如何に君を愛するかを顯し得べしと存候、冬はようやく寒をしのぎうる程なるも君があたゝかき愛のうちにあれば、さむしとは思ふまじくまた三伏の暑さを避く可き處なくも君が胸によれは私のためには金殿玉樓にはるかにまさると思ひ居候、……余は永遠に此の人と友たり之れ又た余と共に君が友たるを許せ……

母を想ふ歌

雲峯子

余の知れる人なつかしき母を殘して遠く笈を東都に負ふ、語らう毎に母を云はとなし、其親愛の情切にして誠にうるはし、嘗て余に曰くわらはの母がいたく好める歌あり、其一節に曰く「主の十字の身によやゝすき。いな世はたれも十字架あり」云々、乞ふ此譜に依て一曲をものせよと。左に掲くるものは即ち此求めに應ぜんが爲めなり。即ち新撰讃美歌百三十五番の譜なり未だ熟思するの遑なく、字句調はず、されど編輯の時に迫る、意に滿たざれども掲ぐる事となしぬ。

一
海路をわたりつゝ、　やまをこへ、
わがふるさとを、　たちいでぬ。

二
しれるひとなき、　身ひとつの、
かりのやどりは、　いとさびし。

三
ひとりかりねの、　よな／＼に、
たどるゆめじや、　ちかゝらん。

四
故郷にのこる、　たらちねの、
母のみかほを、　見ぬ夜なし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

五　さめにし時も、　おもひいで、
雨ふる日にも、　ふくる夜も。

六　忘るゝときぞ、　なかりける、
あゝたらちねぞ、　したはるゝ。

七　あまつみかみの、　ふかき愛、
わがたらちねに、　ゆたかなれ。

八　あさのいのりも、　ゆふつがた、
謝することばも、　かくぞかし。

きよめぬ庭

大佛殿の御戸帳　其二十四　洒落齋主人

世にいたく碁圍むことを好む人あり、碁うたんかぎりは、兒の溝に入りと云はるゝも、妻の病氣惡しと聞くも、親の生命も今はの際にせまれりと告來すも、此の石切らぬかぎりは、出行かじ、負けにけり、復讐をなさん。勝にたり、此度は敵手より戰を、挑む、是非もなし、今一石、など云ひて、貴重なる大陽の光線、既に地平線下に沒りても、終日なに一つなしたる用事もなく、煙草をくすべ、茶を飲みて、食事をさえ忘れたるが如く、宵のうちはまだ早しなど云へるほどに、夜の更行くに少しもこゝろづきしかげさえ見へずして、夜の明るをも知らざるもの常なり。鹿を追ふ獵師山を見ず、漁にふける者は潮の滿るを知らず。此れ己が好めるものゝ爲には、精神を奪はれて、身の深淵に陷るを知らざるなる可し。

故に賢こき人と云ふものも、容易く人にはめらるゝとは、人の己を欺きしにはあらで、己の己を欺きしもの多かる可し。

かゝること頼み來たりし、實に好ましからぬことにはあれど、此れほどの謝禮は贈り來すならん。たとへ謝禮はとらずとも、彼の人の用たしおきたらましかは、後に至りて、なにがしの事たのみて、なしもらはんには、損はあらじなど、肚の中に豫算をなしてこそ、働くならむ。政黨の員となり、雨を衝き風に對ひ、警官ににらめられ、壯士になぐられ、つらき目をなすも、早く政黨内閣にもならば書記官位にはなられなん、いやなやつの死にしのちは、次官は余にきわまれりなど、胸算用なすものなからましかは。彼方にも亦た、かゝる巧の、胸中にならんことを知るものから、かくせばこれ〳〵の報酬せん、かくせばこれ〳〵の官につけんなど、さま〳〵に誘ひて、思ふまゝに働かしめ、事なりし後は、「まことに御苦勞此

は少々許りなれど、「御禮のしるしにまで」。わけて悔しき玉手箱中には僅の目くされ金あり、此は欺かれしかと憤れど、はや詮なし、事は成りにけり、朋友は繰紲の辱をうけ、身は、犬骨をりてたかが目くされ金にて、追ひ拂はれぬること多し。

秦の惠王のときありけり、惠王齊の國を伐んと欲すれども、楚の國の齊と親しければ、味方せんことを恐れて、張儀をして楚の懷王に說かしめ、若し楚王關を閉ぢて、齊の國との交通を絶たるゝなれば、秦の國より商の地六百里を獻ぜんと申入るゝ。戰國の時六百里の地得らるゝことは、よき利益あればとて、懷王張儀の言を信じ、勇士を出して北の方齊王を辱しめたれば、齊王は楚の國の不實あるを怒りて、秦の國と交を合せたり。それより楚王使を出して、約束したる六百里の地渡せよと秦王に申送れり。張儀曰く、其地は此所より彼所までにて、其廣袤六里ありと答へければ、懷王欺かれしを知りて、大に怒り、秦の國を伐ちしも、戰ひ敗れ、大敗をとりしとなん。

今は昔西の京に住居せし何某と云へるもの、心中に願望あり、いかにもして此こと果さんとて、音も名高き大佛殿に詣で、切りに願のことゝもならべしのち、申すやう。かゝることに候が、此事かなへ下されば、御すがたのかくるゝほどなる、御戸帳をかけ參らす可し、と誓ひて歸りぬ。大佛の通力ありしやしらず、ほどもなく心中の願事はかなひぬ。彼の者いたくよろこび、太丸の手代つれ行きて、大佛どのゝたけはからせ、御戸帳にいくばくほどの布地入用にやとたづぬるに、五十疋の絹にてはとても足らずと云ふ、彼者もさほどゝは思はず、願事無中にてなしたるに、まゝ屆られながら、入費の多きため、一日二日もそれなりにすぎ行きぬ。大佛どのいたく腹を立てられ、久しぶりにて、御戸帳かけらるゝ嬉しさに、六づかしき願事をもたやすくかなひてやりしに、かれこれとひまどるは、不屆ある奴かなとて、門番の仁王を使にたて、彼の者つれ來れかし、自から嚴しく申聞けん、と命ぜられければ、仁王いそぎ彼の者をとらへ、つれだちて來たる。大佛どの、爾は不屆ある奴かな、佛を欺きて願をかなへさせ、約束の戸帳今にかけぬ、其分にはさしおきがたし、と云はれければ、彼の者いたく恐れあやまりて、御戸帳をかけ申さんと申たること、少の相違は之なけれど、餘りに絹の入りしまゝ、何卒御戸帳をつくることは、御ゆるし下さる可し、そのかはりには、野郎頭巾をしておませ申さんとぞ申しける。

小説

小公子

第二回（下）

若松しづ子

自分が角を過つた時、チヨット眼に這入つた馬鈴薯や林檎の箱、其他種々雜多の商物の散亂してゐた小店のことを此時思出し升てハブィシヤム氏は又心に疑を生じ升た。いかさま英國では苟くも紳士の家に生れたものは、萬屋の亭主などゝ友誼を結ぶといふ樣なことは有ませんかつたから、今聞たとが余程不思議な所行に思はれ升た。もし其子供が行儀賤しく、下卑た人の交際を好む樣ならば、それこそ當惑なとゝ考へ升た、老侯が何よりも不面目に感じられたとは、長男、次男の兩人が、下賤の者の交際を嗜んだとでしたから、此子が萬一、實父の見識を受繼ず、却つて伯父たちの惡癖を遺傳しはせぬかと、少し氣遣はしく思始め升た。エロル夫人と談話の最中、此とに付て心安からず思ふて居り升たが、其中戸が開ひて、子供が坐敷へ這入つて來升た。最初、戸が開き升た時、何故ともなく子供と顔を合るが嫌に思はれて、チヨット躊躇升た。然るに手を擴げて迎へる母の方へ走り寄る子供を見ると同時に、此老紳士の心の中に起つた得も云はれぬ感情を、平素其實着、沈靜な氣象を見貫て居たものが知り升たら、余ほど不思議なとに思ふとでしたろう。さてかくまで非常にハ氏の心を動かしたものは、一種反動的の感情でした。一見して其童兒が嘗て見とのないほどな秀逸ものと分りました。殊に容貌の美いとは非常な者でした。其躰つきの倔強で撓やかな處、幼な顔の雄々しき處、子供らしき頭を擡げて進退する動作の勇ましい處、一々亡父に似て居るとは、實にギヨツトする斗りでした。髮の色は金色で、父に似、眼は母の茶勝な處にそつくりでしたが、其眼附には、悲しそうな處も、臆せ氣味な處もなく、只あどけない中に、毅然とした處のあるは、一生涯、なにゝも恐れたとなく、疑つたともないといふ氣配でした。ハ氏は心の中に、是は又大した上品な、立派な童兒だとおもひましたが、口へ出しては極く淡泊に、「サヤウならばこれなるがフォントルロイ殿で御座るか」といひました。此後、童兒を見れば見るほど意表に出るとが多あり升た。ハ氏は英國で見た子供の數の最も多中に、嚴重、丁寧に抱への師匠に仕着けられた、氣量好の、立派な童男、童女も多くありました。中には控めの質なのもあり、又中には騷々敷方のもありましたが、恐れ近づいて、

子供といふはどふいふものと氣を留めて見たことは有りませんかつた。尤もハー氏の如き四角張つた、嚴整な老成代言人にとつては、子供などは別段面白いとはなかつたでせう。然るに、セヂー丈には、普段と違つて、よく注意したといふものは、此童兒の運命は、自分の利益に關係の多い處からで有つたのか、又はそうでないのか、兎に角知らず、識らず、非常に注意を引起されてゐ升た。セドリックの方では自分の眼を着られて居るとも何んとも氣がつかず、たゞ平生の通りの擧動をして居り升た。自分がハー氏に紹介された時、いつもの通り丁寧に握手して、ホッブスと應答すると替つた調子もなく、問はるゝ毎に雜作もなく返事をしましたが其樣子は恐氣た風もなく、さりとて差出ヶ間敷處も有ませんで、ハー氏が自分の母と話をしてゐた間、チット聞いて居つた樣子は、ハー氏には丸で成人かと思われる位でした。

御子息は誠にお巧者の質に見受けられ升、と母に向つて申し升た。

左樣で御座い升ことによるとさうかと存じます。物覺は極く宜しい方で、只今まで重に年上な人と計り居り升たから、聞覺や、讀み覺の長い言葉を遣ひ升たり、ませたとを申たりする僻が御座り升て、折々大笑をいたし升。仰の通り、どちらかといへば、巧者なたちでせうが、又時としては矢張り、極々子供らしふ御座り升。

此後ちハー氏が再たびセドリックに出逢ひ升た時、母の申分を思ひ合せて、本に子供らしい子といふとが分りました。馬車が角を曲がると、一組の童兒が眼に這入り升たが、見れば何か大層イキセキしてゐました。其二人は今しも走りくらべにかゝらうといふ處でしたが、二人の中の一人は未來の侯爵殿で、朋輩に負けず、劣らずの騷をして居られました。丁度今、合手の子供と並びたつてゐて、赤い靴足袋を穿た脛を向ふへ一步蹈み出してゐる處でした、主唱者は大聲に、

よろしいか? 一ッチデ始まり……二ッヂ確乎、三ッヂやれ………

と呼はわつてゐました。ハー氏は知らず〳〵首を馬車窓の外へ出して、大層身を入れて勝負を眺めてゐました。合圖の言葉と共に跳出した若侯の立派な赤い脛が膝切ヅボンの後へ躍り擧り、殆ど宙を飛かと思ふ樣な鹽梅は、未だ嘗て見たとのない壯觀だと思ひ升た。セドリックは少さな兩手をシッカリ握つて、風に逆つて走り升がた、きら〳〵した髮は泯々と後ろへ吹流されて居升た。朋輩の男兒等は夢中になつて足蹈をし

あがら、狂ひ聲に呼たて、

セデー！ヤッ、ケローイ。ビレー！負けるナアイ。ヤレイー！ヤッ、ケローイ！

ハ氏は獨言に、

矢張りこちらが勝そうだ。

といつてゐ升た。彼の赤脛の飛工合、朋輩等の高聲、赤脚に少し後れてゐても、中々輕蔑の出來ぬビレの鳶色の脛が夢中に競爭するも、何れもハ氏の心をいらだてる原因でした。

どうぞして勝せて見度ものだと。

又我知らず獨ごちて、あとで人もゐぬに間のわるそうにしわぶきしてゐ升た。丁度此時跳上り、躍り廻つて居つた童兒等が、一齊に鯨聲を作つたと思と、未來のドリンコート侯爵は最後の大奮發の一飛で、角のガス燈の柱に達し升たが、これはビレが息を切つて其柱へ飛掛つた二セコンドほど前のとでした。

ヤアやつたあ、セディ、エロル！えらいぞッ。

と朋輩等が叫びました。ハ氏は此時暫し馬車の窓から首を引こめて、にこ〳〵しながら後ろへ寄り掛りました。

フオントルロイ殿大でかして有つた。

と又獨言を云ました。自分の馬車がエロル夫人の家の前へ着た頃には勝負を終へた兩人は、ガヤ〳〵ドヤ〳〵と立騷ぐ一ト群の童兒等に後を推されて參り升たが、セドリックはビレと並んで歩いて居つて、何かいつて居り升た。其いらだつた顏は眞赤で、ちゞれた其髮は熱して汗ばんだ額へくつゝいて居つて、其兩手は、ポッケットの中へ這入つて居り升た。

チー君、僕が勝つたのは僕のすねが君のより少し長いからだろうよ。なんでもそれにちがひない。チー君、僕は君より三日早く生れたろう、だからそれが僕の得になつたのだ。僕は三日丈、君の上なんだもの。

と勝負に不首尾な自分の競爭者を慰める積りか、いつて居升た。こふ思つて見ればビレも心わるくなく、段々白い歯を顯しかけ升た、そして其中に却つて自分が勝でもしたかの樣に少し威張り氣味に成升た。セディ、エロルはどふいふものか人の不機嫌をなだめる法方を知つてゐました。自分が勝利を得て心の浮〳〵してゐる時でも負かされた人は自分ほど愉快ではあるまい、こうあらば勝てたものと思はれゝば、幾分かの心遣りになるだらうと、人の心の中を推する德を持つてゐました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○新作十二番の內、此ぬし　　撰象子

表裝、題簽、疑りに疑りて寧しろ厭氣を催ふす計り也、式八按摩を頼むべきものと言ひしは、惡口のみにあらず。十章抄じて文辭嫻麗あらぬにあらねど、常よりは見劣りす。殊に露伴子に似んとして未だ到らざる所ろ、反つて紅葉山人の長所を沒するの心地す。俊樹よし鋼線の神系、氷の血にて滿つると云へども、男子斯く迄に偏窟あるはあらじ。亦娘の人に戀ふると云へども、未通女にして斯の如く厚かましきは稀なり、ともに人情を失ふ。俊治が鉛筆畫の手本よりして芍藥を思ひ出すは子供らしけれど、湖井の家に至り坐敷を景樣するの觀察は童子の眼こに映ずべきものあらず。結末、万才、万才の調子は、宛がら才藏が三河万才の如し、全篇の輕佻大率ね此の終末の趣むきに類す。惜しひ哉、山人近來の拙作あり。

○日本歷史　　井上次郎

天野爲之、前橋孝義兩氏の合著とあれど、主として前橋氏の筆に成るごとし。万國歷史、万國地理、などを著作し頗ぶる教科書製作に熟達せし人の筆なれば、好く氣の若きし所ろ少なからず。日本歷史を大別して四期とし、更に小別して九小期となすの區畫甚はだ便利なり、挿圖を各期の末に加入したるも亦尤もよし。但し、日本人種及び神武帝以前の事に付きて、之と云ふとを毫末も述べず、其他の記事にも左して新らしき創見と云ふものなく、但だ編纂の体裁よく整ひたるを以て價ありとするに似たり。

寄書

○迷信誤認　　しきたへ

我の彼を見て白しとするも人彼を見て黑しと云へり、我が判定の過るか、我彼を呼で石とせりまた人ありて玉と云へり、我に迷信の過あるか、我と人と其見る所異なれり、黑白孰か眞なるや玉石殆んご知り得べからず。我に深奧を探るの眼なければ、人また一見表裏を知るの識なかるべし、彼の眼に迷眾あり我が目に惑惑なからずやは、誤認して語り聞て迷信し一分の差違千里の差を出すの不幸あらしむ、我れ聞て喜べりこの喜び果して眞なりや我れ語りて悲めりこの悲み、果して眞なりや恐らくはこれ迷信誤認の致す所に非ざるや、我が愛とする所人必ずしも愛とせず、我が樂しむ處人必ずしも樂ます、去て人に問ふその云ふ所みな異れり噫、世の榮辱に心を勞すの人よ、迷眼の士と雖ども朝化暮變の人世をいかでかよく看破し得べき、況んや粗豆の小人がその云ふ所なす所迷信誤認に發する多し、名利相む可きものに非ず、褒貶恐るゝに足らざるなり、我も人も多くは迷信誤認のうちにあり玉必しも玉ならず、石また石に非るなり。

東家小女　　嘯月子

東家小女字阿香　年甫十六在深房　朝歩後園捉舞蝶　昨夜西娘淡美粧」
爲裁文繡綺　一鶴發五彩　更教習玉管　片股當千金」　嗚呼可憫娉佻東女惑
致學西娘爲誰飾　楊家之兒猶怨語　百年豈有紅顏色　何況纔假粉黛粧
爭教玉孫朋比翼」　君不見三春將老洛城東　日暮狂風捲花叢　日飛紅散漸然後
誰傍桃李繫玉驄

我子は如何に（ドーベル原作）　　栩栩居士譯

一、こや、海原の舟人よ、
「御身が息子の名は如何に、
海に出でしは吾子ジョン！
心を舟に配はるべき？

吾子！吾子は如何にせし？
何の小舟に乘り出でし？」
吾れは何とて、舟人よ、
吾子は吾れの吾子なり。

二、御身は海より踊り來て
斯れば御身に問はんより
吾子を知らぬものとては

吾子ジョンをば知らずとや？
あれ市人に問ふべきを。
此塲に一ッの聰慧もなし。

三、吾子―吾子は如何にせしか？
吾れは誓はん、御身こそ
黄なるボタンを着くるさて、
舟人ならじ、舟人よ！
徒に「ジョリーブリトン」ぞ――

四、ジョンの成行聞かんとて、
吾子を誇る聲ばかり
都を馭ひ回りなん！
「其舟は早や沈みにき！」

五、吾子―吾子は如何にせし？
心を舟に配ばるべき？
浮ひたりさて、さては又
沈みたりさて、泳ぐさて、
それを償ひて得さすべし？
「舟に乗りたる人々は

六、吾子―吾子は如何にせし？
心を他人に配ばるべき？
吾子―吾子は如何にせし
残れる人々は死に角に！

御身若し吾れに知らさずば
藍きジャケツを纏ふさて、
碇、冠をかざるさて、
吾子の乗りし舟の名は
「静かに話なせ、今少し！」
如何で静かに話すべき？
吾れが聲音の高からば、
如何で静かに話すべき？

吾れは何さて、舟人よ、
吾れそに乗りし事はなし
濵邊に上げてありさても、
徒かに舟の持主は
こや喃、吾子如何にせし？
「一人残さず沈みにき。」
吾れは何さて、舟人よ、
吾れ、人々の母ならず――
語りれ、吾子如何にせし
吾子―吾子は如何にせし

開書

築地の一寒生に云ふ

かほる

つたなき作御高讀を煩はせしよし謝する辭なし、殊に御高評を給はりし事余の面目之に過るなし、余や未だ文學の何たるを解する者に非ず、只匆卒筆を下して感を記し、名づけて小説と云ひぬ、計らざりき幾多讀者諸君の清閲を汚さんとは、殊に余の實歴なりと誤り、見舞の言辭を送られし人、送らんとせし人々の懇情を深謝す、築地の一寒生と名を包み玉ふは如何なる君に在はすや知るによしなけれど或點に於ては君の評眞に適切と自ら悟りぬ、其無理の造語ありと云ひ、悲語痛語重疊反覆多きに過ぎて讀者を倦ましむると云ふが如き、誠に當れりしならん、其賞言美語に至つては素より當らず、殊に將來に於て望を囑かるゝの語恐れ多し、讀去つて冷汗の双脇に流るゝを覺えぬ、凡そ人責任を負ひ、希望を屬せらるゝ程喜ばしきはなし、余君の言を聞て喜ばざるものならんや只君の高望に背かんを恐るゝのみ、願くは君眞名を告げ、後來教示を惜み玉ふなかれ、是余が心より乞ふ所、求むる所、君夫れ許し玉へかし、今日改良すべきもの多き中に文海の濁流こそ最も其清澄を計るべきものなれ、余もし天の許す所ならんには全心を捧て之が爲に爲す所あらん、事の成否は余の知る所にあらず、不才魯鈍は天の賦性亦余の關はる事ならず、只々忠直に眞面目に熱心に余が天職と信する所を爲さんのみ、今日の文學に對して多少述べたき所なきにあらねど今は只一寒生に答へ他の博愛心切の人に謝して止まん、終りに一言すべきは余が一寒生の眞名を問ふと共に余も亦平常用ゆる所の一名を名のらん、是蓋し一寒生に告ぐるに止らず、余が彼の一篇を起草せし以來住所本姓を問ひ來されし多くの人々に答ふの意に出づ、余が始め殊更に匿名を附せし所以のものは余の實歴と誤解せられんを恐れたればなり、今や人余の實歴ならぬを認めしならん、依つて問ひ來されし厚情に報ひん爲め左に余の號を附す、

九月上旬　　かほる事　雲峯子

交詢

みれ子

●一樸生樣　明治學院神學部へ入學する試驗の事よく存じませんどうぞ同院の規則を御取寄せになつて御承知を願ひます。

●書物の事　書物の實價の事諸君より御尋ねになりましたが次號に悉皆御答へ申すつもりです。

●神田河合氏　雇ひ度き人、雇はれたき人云々の事他日交詢案内に出しましよふ

●山形縣五十嵐氏　本社の雜誌書籍は前金にあられば發送するとができません、女學生は郵便切手六錢郵送すれば直ぐ發送致します。

●越前田中氏　今日詩人中にては何人が最も大家なるやとの御問ひ、容易に答へかれます、詩人とは勿論漢詩を作る人でしよふ、新聞や雜誌に多く詩が載せてありますが何人が最も巧みなるかよく詩を知る人に尋れて再答致す事としましよふ

●壯士とは如何な人か　羽後山本氏よ新聞紙にてよく壯士といふ文字あるが如何なる人なるやとの御尋れ、私も如何に定義を下して宜しきか存じません、而思ふ所を簡短に述ぶれば壯士とは殆んど封建時代の浪人と云ふ如きものに近かろうと思ひます書生あがりの人々が糊口の爲めに彼處此處に身を寄せ、其主人(若主人と云ふを得ば)の爲めに横行して何かなすのでしよふ、壯士のみ獨立する事はありますまい必らず其上に立つて之を使ふ人がある故存するのでしよふ。果して社會に必要の人種かとの御問ひ、是も六かしき問題です、大政治家にでも聞かればよく分りません。

時事

○兆民居士の筆

立憲自由黨の主旨書は、終りに中江兆民居士の筆に成りたる由。何如にも好く出來たり、短文直截にして而も意趣限りなし。此類の作は實に受賣議員もしくは、「豈夫れ然らん哉」の流にては出來得べき者に非す一句も増す可らす一字も減す可らすとの自信は尤もの事と思はる。

○自由改進

「自由の大義に仗り改進の方鍼に循ふ」の一句現はる。或は云く、自由黨の人夫れ如此く寛待す、改進黨の人宜しく躍入すべしと。吾人はいよ〳〵其兒戯に類するを笑ふ。茲に朝野記者、其十一日の紙上に於て之を大駁公辨し、如此くするは彌よ改進黨の意望を誤解するものと云へり、論議正明堂々と云ふべし。然れども彼の主旨書を起草したるものは亦人情にあつき人なるべし、喜ばすんばある可らす。此上は惣じてかゝる面倒なる一對語を除き去るに若かす。

○内閣諸公に辭職を勸む

その上み、德川内府の上書に曰く、

昔者綱紐を解き相家權を執り、二百有餘年、其職を奉すと雖も、政治當を失ふ事少からす、今日の形勢に至り畢竟薄德の致す所、慚愧に堪へす、況んや當今外國の交際日に盛んなるより、朝權一途に出でずんは紀綱立つべからす、依て從來の舊習を改め、政權を朝廷に歸し奉り、廣く天下の公議を竭し、聖斷を仰ぎ同心協力共に國家を保護せん、慶喜國に盡す所是れに過ぎずと。

此一節を繰反して、今の内閣諸公に辭職を勸告するものは、關西廿二州の會員なり。面白き思付と云ふべし。

○元老院

元老院近ごろ頓かに耳立ち來る。其壽命今日中と思ふときは、面白き演劇を中比にて止める心地し、頗ぶる遺憾なり。議官中には非常の激論を爲す人もあるよし又慷慨の涙に溺るゝほどの人もあるよし。至つて宜しきとなれど今少し早く其趣あらましかばと、今更のやうに思ふものもあるべし。

○西陣織の前途

久しく不景氣の爲め苦しめられたる機業者も漸く愁眉を開き今正さに各種織物の製造を盛んにせんとするの準備に怠りなき由なるが茲に猶ほ西陣の爲め前途の障害と見做すべき一事こそあれソハ他にあらず元來西陣製産物の一として各主要の部分を占めたる綾綸子及び羽二重の如きは近來石川縣下及福井縣下の機業者に其業を奪ひ去られんとするの傾あり尤も羽二重のみは猶全く其巧を奪はるゝに至らすと雖も綾及綸子の二品に至りては其品質といひ光澤といひ西陣の機業者は寧ろ一着を福井石川の兩縣に輸せり右兩縣の製産品は其品質の精良にして能く需要者の嗜好に適するに拘らす其價格も西陣の製産品に比して低廉なるが如し然れば西陣の綾綸子は近來年一年に世上の信用を失ひ爲めに漸く其製造高を減少し之を二三十年前に比して殆んど半數に過ぎざるへしといへり斯る次第なるを以て機業者中偶々之が挽回を計らんとするものなきにあらずと雖も彼の兩縣地方に在りては各機業者の質撲にして充分の勉强と充分の節儉とを以て充分の精神を製造事業に込め常に浪費を省き奢侈を戒むるの風あり之に反して西陣に在りては因襲の久しき奢侈自ら風をなし口に身に美を食り麗を飾り節儉の心に乏しきこと素より田舍の比にあらざるを以て今製造業の費用を省きて福井石川兩縣に競爭せんとは甚だ困難なり遠からずして綾綸子の製産業を全く石川福井兩縣に奪ひ去らるゝことも疑ひなし是れ西陣地方の爲め憂ふべきの一事なりとす次に西陣の博多織は一時需要少なからざりしが近來其製造本元なる博多地方の實業家が大に改良進歩を計り居るを以て是れ亦西陣機業者の手を脱するに至るべく天鵞絨の如きも外國より續々良品を輸入し來るが爲め西陣の製造高は大に減少するの傾あり此二點も西陣の爲め痛嘆すべき事共にして機業者中之が挽回策に苦しむ所なり（中外電報）。

○時事新報紙上娼妓の畫現はる

其十六日の紙上第一面を見よ、何にたる醜狀ぞ。裸体畫の惡しきは醜物をムキ出しにするが爲め也、然らばたとひ他の本にありと云へども、其醜をわざ〳〵紙面に露白するは豈に一種の裸体畫にあらずや。堂々たる府下大新聞の紙上、尙ほ此類あり、公娼の發浸潤すると如此く深し。又注意せよ、如此き醜躰の畫は、圑扇の畫となり、錦畫の畫となり、美術論中の畫となりて、歐米文明國士君子の面前に曝さる、而して之が爲に受る所の假ひは「日本は姦淫國なり、淫亂國なり」と假定するの評にあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○神官の決議

九月十二日の神官會議は三條を決議す、其一、三は暫らく言はず、第二條

神道の妨害と爲るものは事の大小彼我の別を論ぜず務めて排除する事

此條甚はだ氣遣はし、進化論、日本歷史、などの講義を爲す時も、頑然反對妨害せらるゝやうにては、學術の進歩を妨ぐること甚大ならん。

○當撰后の議員

中外電報に云く、西本願寺派の禁酒會員中には同會員たる菅了法、金尾稜嚴、堀善證、赤川鐵嚴、天野若圓、松本鼎、末松三郎、箕浦勝人、等の諸氏が衆議院議員に當撰してより後は全く禁酒主義を抛棄し一向に會員たるの義務を盡さずさて大に不平を鳴し寧ろ退會を勸告せんかと相談中なり。

○安息

佛國西の名士ジウル、シモン以下同志の人若干、勞働者安息日休業奬勵會の惣代として、內務大臣に建議し、佛國內の鐵道其他の公業に從事する會社の役夫に安息を與へしむべきことを勸告す、大臣は之を諸會社に轉報し、且つ何如にかして七日に一日の安息を與ふるやうにすべきことを忠告したり。

○レスト、カッテージ

ウイッード女史四方に周遊演說し、一年只だ僅かの日、其の孤村靜幽の地に退ぞき八十の老母と、年少の愛書記ゴルドン女史等と暫らく休息す。故に其寓に號づけて、レスト、カッテージト云ふ、安息小舍の義なり。舍狹く極めて不自由なるを以て、婦人禁酒會の會員之を心ぐるしきことに思ひ、同志の人密かに相計り、女史が他出せる間だに大に家居を修繕す。女史此頃ろ西部の演說より歸り來れば、新室淸麗にして、鮮氣流通し、溫光徐むろに入る、蓋し之れ女史が尤も好むところと云ふ。增築監督委員の惣代としてヘレン、フード孃立つて女史を此新室に迎誘し、且つ此舍を獻寄するの演說を爲す。想ひ見る當日の光景。感淚とゞむること能はず。

因に云はく、米國婦人禁酒會員の運動は目覺しきものにて、其の月々日々の勞動驚ろく斗りなり、ウイラード女史及ゴルドン孃本年中の巡回は凡そ一百以上の主市にわたるべく、又新會組織部の長エルス夫人の如きは一日平均一回づゝ演說せざることなしと云ふ。其の安息所を要するは素よりなり。日本婦人の如く常に家に居るものは左して安息室を欲しゝとも思ふことなかるべし。

○細民婦女の內職

玉を炊き桂を爨きて美味芳香を奢め尺寸土を踏まずして出つるに肥馬輕車あり衣るに綾羅錦繡ありて贅澤三昧に面白おかしく暮さるゝ貴人紳士もあれば塵埃堀冒十丈の路塵に埋れて膚に完布なく糠を食み水を飲みて其日を送る細民もあり彼にありては娑婆は是れ極樂園是にありては浮世は誠に憂世なるべし今其哀々たる小民の細君が陋巷薄暗き處カンテラ油盡きるの淺寒を忍び飢を忍んで辛勞する內職の有樣を擧げて肉食者の猛省を請はん。

髮結　是れは無下に卑しき業なれど女の內職としては唯櫛一二本を資本とは手取り早き業なり歌妓令孃などの髮結それは別にして此輩は唯近所の人の髮を結ひ遣るなり備吏巡査及び其他の小商人の細君たちは此頃の米價騰貴に箕づにつけてつましく〳〵と考へ居るものから高き髮結に結せるは贅澤なりとて此の素人髮結に賴むなり二錢より一錢五厘中には一錢にて一日の收入凡八九錢。

賃仕事　是も女の內職としては下に記せるマッチの張り團扇竹などよりは收入多し單衣一枚六錢木綿々入十二錢綿入の縫ものは一枚二十五錢なれど心易からぬ人は典物さるゝことを恐れて賴みに來らず其兒は飢に泣きて米もなき時には賴み來りし反物を典却して一時焦眉の急を救くことあればなり。

洗張り　穢くろしく汚れて縫目に白く何やらの蟲の卵などある衣服又は病者の着せし汗臭き衣服など洗ふ其つらさ、しかも單衣一枚僅かに一錢五厘襦衣一錢。

千物袋張り　この內職は竹箆唯一本の外に一の資本なくして出來るなりされど孜々として朝より夕に到まで魂氣を使ひ盡して千枚僅二錢なりと。

書籍の折り及び綴　是れも魂氣を使ふ內職なり一枚一枚と折り重れて千枚僅かに一錢西洋紙の折りは其賃少しく好しされど八ページの硬き紙を折るには掌腫れて痛ければ竹の輪切を中指に嵌めて之れを折る其賃錢千枚六錢なり雜誌類の綴は縫り綴じ（絹糸にて綴るもの）千册三錢日本綴千册六錢なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

火奴貼り　所巷到る處この内職をせざるものなきまでに流行せり只黽勉として山の如く貼り上ぐるも千個僅かに六錢。

襯衣縫ひ　これは賃仕事洗張りに比ぶれば尤も割の惡るき内職なり小供のシャツ一枚六厘より八厘大人襯衣一錢二厘但し之れは綿フランチルの冬物なり金巾の夏シャツは一枚八厘より一錢にして日に五六枚を縫ふに過ぎず哀れなるとならずや（報知新聞）。

●印度の子供結婚　印度の女醫學士チャンセル夫人は子供結婚の風習を禁ずるとに付き、政府に建議したり。

●ダイヤー氏　は亞片禁止其他の社會改良問題の爲め暫らく英國に歸りたり。

●那珂通世根本正兩氏　は此學期より明治女學校の講師となり那珂氏は、支那歴史を、根本氏は社會學を講ぜらる。

●根本正氏の新婚　櫻井女學校の小川さく子と目出度婚せられ、安藤太郎氏夫婦保證人とならる。

●米國女記者　米の合衆國中にて現時女性が記者の仕事を爲し居るもの五百人以上あり。

●子守學校　教育の道追々開け行くに隨ひ子守の爲にも學校を設立せざるべからずとて長野縣長野町の有志者は愈々子守學校なるものを設立する事に決し今度其事務所を大字原町に設け主意書及校則をも頒布せし由今設立方法の大意なりといふを聞くに本校は特志家の義捐金と勞力に依りて成立ち生徒の修業期は一ヶ年とし毎週二回教授す、學課は幼兒の教育に補ひある唱歌、道徳上、衛生上、智識上の談話、簡易なる縫物又は編物等にて文字は平假名、片假名を限り教授し雇主の添印申込に依りて入學を許すの手續なりと（東京新聞）。

●静岡青年會婦人會　婦人會は加藤米子女史整理し、青年會は小林光泰氏會頭たり。

●和歌山基督教婦人傳道會　全會明治十九年に創設し爾來婦人の働きを以て傳道費を積み或は時に傳道地に婦人信徒を派出して道を說きしことありしかどなほ其目的を遂げずして擴張せらる會員大凡四十名長老教會信徒よりなる。

●茨城縣久慈郡太田町婦人協會　太田町は水戸を去る五里の北方にありて一小市街をなす茨城縣北部の物産集合して商業繁盛なり戸數千五百を有す久慈郡役所警察署等も亦此地にあり太田婦人協會は矯風の目的を以て明治二十一年當地の有志者發起し現今會員百五十名に垂んとす同會は本月九日同町獅頭寺内に開會せしに出席婦人五十名男子二十名程にて席上當地の僧侶小林大空、駒橋鉄讓、氏等の演說ありたり又同會は東京聯合婦人教會と合同し其關係同會の支部とも云ふべき有樣にて今后は折々東京より辯士をも招聘して例會には婦人の心得とも成るべき演說を請ふ由。

●岩崎知事の歐米主義　岩崎滋賀縣知事は勤勉節約を以て治民の第一義とせらるゝことは曾て聞く所なるが家庭の内に於ては頗ぶる夫人を愛重せらるゝ趣きにて過きに中井縣官が同縣に知事たるの日には飲宴交際の道廣く官民の間に行はれ今は岩崎氏知事たるに當り之れに代るに細君愛重主義の行はるゝを見るに至らんとす是れ彼の歐米に行はるゝ男女同權なるものか（中外電報）。

●耶佛相對　去八九日西京中立花黒門一致教會堂にて、各教會婦人連合祈禱會あり。七日にには西京西洞院五條西へ入る寺にて西京婦人教會の集會あり赤松連城氏外三四名の演說あり。

●無月謝女學　波多野敬信今川周治の二氏は地方女學の振はずして女徳の日に敗壞に趣くを歎し今般越後津有村大字下野田十番戸に文友女學會なるものを設け男女數名の教師を雇入れ專ら女子に必要なる學課を無月謝にて懇篤に教授する由。

廢娼記事

全國廢娼同盟會の議決の如く、帝國議會の開會近づくに連れて、廢娼運動又々各地相應じて勃興するとゝなれり。

●東京廢娼會

は委員十五名の中より更に委員長一人、評議委員二人を常置するとゝなり、衆議の末、島田三郎氏を委員長に、飯野吉三郎、巖本善治の二氏を評議委員に定め、且つ假事務所を女學雜誌社内に置くとゝなれり。扨て第一着の運動には、從來數多ある廢娼論を一とまとめにし、且つ其歷史及今后運動の方針を略記し、一冊子を製して廣く配布する事に決す、而して同冊子の勸告文は三宅雄二郎氏自ら執筆すとて熱心計畫ある趣き。

●廢娼壯年義會

同會は主も演說と議員への勸告とを以て運動せんとす、去土曜日上廣亭に於ける演說會は、石嶋良三郞、靑木秀二郞氏其他六名にて、聽衆三百余名、老成の人多く來聽し頗ぶる盛會なりき。

●上　毛

上毛は板垣退助氏を聘して大演說會を催ふさんとす、大同新聞の記事に云く、上毛靑年の大聯合躰は昨年天下に先つて廢娼論を唱へ終に群馬縣會をして廢娼の決議をなさしめ其の〻勢延いて日本全國に反響し一時は到る處廢娼の聲を聞かざるなきに至らしめ遂に群馬縣下に於ては本月を以て貸座敷地三箇所は全く廢止するに至りしが是れにても尙は飽き足らずして更らに殘餘の貸座敷をも悉く廢止せしめ縱て廢娼の議を帝國議會に建議すゝの用意をなさんため本月二十三日を以て上毛靑年聯合會の大會を催ほす筈にて同會員石島良三郞氏は去る十日を以て上京なし在京同會員湯淺重三郞氏及び植木枝盛氏と板垣伯へも來會を乞ひしに伯及び植木氏は喜んで承諾したれど伯は目今病氣故全癒次第伯より通知をなす筈にて開會は多分本月二十八九日頃になるべしと云ふ。

●神奈川縣

神奈川縣廢娼遊說の實况　　佐々木笑受郞

笑受郞今廢娼遊說の實况を報する筆を把る前に親愛なる女學雜誌記者藤本善治君の特別なる厚意を仰がざるべからず即ち笑受郞が地方遊說中見聞せし所の事にして荷も吾人廢娼論者の注意ともなるべきものは細大となく筆錄すべければ簡文全きを得ず隨て貴重なる紙面を廣く埋むるに至るべし然れとも固より出來得べき丈は簡約に綴ることを勉むべければ君怨て之れが爲めに一欄を貸せ是れ笑受郞の切に望む所而して貴意を得ば實に望外の幸福のみ。

縣下一般の或情實

縣會議員は固より縣下の有識者人望家槩て富豪の士なり社會問題若くは縣治問題に就き彼等の間に公會場裡若くは縣會議場に時として窓戶を破る激論も起るべく時としては屋場を覆す紛擾も出來すべし然れとも閉場を告げて各退出する時は互に相親和携提して亦怨敵なし社會に立て事に與るもの素より其所なりとす我縣下の議員又大に此風あり全縣下議員の親睦誠に賀すべきなり其中特更に同郡內より撰出されたる議員の間柄は水魚も啻ならざるなり故に笑受郞が先づ

鎌倉郡

撰出議員齋藤滿平氏を訪ふや手を拍て我運動の眞正なるを賛し且つ大に賛成なる旨重言吐露したれども建白書に調印と云ふに至りて稍や躊躇したり而して曰へり廢娼の事徹上徹下賛成なれは記名調印素より敢て辭する所にあらされとも曾て此儀につき同郡の議員德增源太郞氏と互に談合せし事もあれは調印の事亦一應相談せざるべからず然らずして若し前日談合ありしにも拘らず一人調印せば、有るべき答なきなれとも之れが爲め萬一私交上の破綻を來さば將來起り來る社會問題に協力の計を爲す克はさるに至るを恐れ要ふ故に地方の情實或は姑息の感なきにあらされとも右諒察せられ恐縮ながら重れて來たるべし余は決して不賛成は爲はさるべしと而して笑受郞は再三決然の所置あらんを干めしかとも肯ず遣憾を忍びて立ち去りたれども再び訪ふに當りて右齋藤德增兩氏の記名調印を得たり於是か鎌倉全郡廢娼運動に賛成者多し余は此より進んで(以下次號)

●大阪燒后

大阪の大日本風俗改良會にては豫てより廢娼論を抱持せるもの多きなり拆測らずも今度新町の大火にて同遊廓の過半燒失せしを機會とし先づ第一着に同廓を他へ移轉せしむるか若しくは斷然廢止し追ては他の堀江、五花街、曾根崎新地等の各遊廓に及さんとの議論起り去る九日午後八時より南地京與花壇に於て會員の總會を開きしに出席員二十餘名にして議事に取掛りし處多數を以て廢止說に決し取敢ず府知事に建白し追て府會及び市會にも建議する事に議定し同十時過散會せり右に付同會員土肥正季氏は會員總代の資格を以て翌日西村府知事に對し遊廓廢止の建議書を提出したり。之が爲めか市府會議員及ひ大阪經濟會員中にも亦之に賛成し大阪市參事會にも同樣の議論ありて差向き本通りの席貸業者中燒け殘りの分は同町南通り越後町に移轉せしめ本通りには一切遊廓を置かざるとに歸着したりと。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●近江長濱

東湖義會なる青年會新に起り　特に廢娼問題を議決して大に運動せんとす、而して同會率先者の一人小川逸太郎氏は、去十五日一人にて廢娼演説會を催ふす、聽衆三百人ありき。

●山形縣

過日山形縣鶴岡婦人義捐會に於て催ふしたる廢娼演説會にては進藤孝女富樫福女加藤菊代女が妙齡にありながら雄辯を振ひたれば即座に數十名の同盟賛成者を得たりと。

通信

貧民救助の報告

本會は五月の央はより毎月曜日、有志者の會合する祈禱會にして窮民の靈肉共に救はれんと神助に依て此等の人人に導かれんと及ひ慈善家の慈善心を引起さんとを祈りつゝありしが不思議なる攝理にて女學雜誌社より無名寄投金二た口を贈られしを以て一層救助のとを盡力するとゝはなれりしと本會は隱密運動を主義とせしか故に報告とは思も寄らざる所ろ其東京貧民救助會婦人矯風會慈善部及其他各教會の大なる働きに比らひて此迄秘め置きしか寄贈者の厚意に酬ひ兼て後來の義捐を得る爲め報告する方は宜しかるへしとのとにより極大畧摘んで報告致候尙は現在も働中に候へば其段も御承知被下度候、

○根津須賀町に三戸の楊弓店あり軒を列れて男女の聲喧き處は面白して車夫竹本氏(元は人形町の質店主人とぞ)家に五月三十日より流行性感冒と衰弱のため水戸に入り間もなく其妻も同病に係り双方苦悶の體なりしを或兄弟か之を見出せしは實に六月十一日の暮方見れは夫婦は裸體にて薄き一枚の蒲團中に交れて臥居り二人の子供は三歲に下り枕頭して一人頻りに食物を請求し居る樣子之を尋ぬるに十日以上の病氣にて今は膳椀茶椀等鍋釜に至り賣盡くし喰盡きて餘す所ろなく殘るは此の一枚の蒲團此れも明日は賣られはならぬ始末只た可愛想なる子供に責められて云ふに云はれぬ苦し死し死切れませぬしと中は口の中淚の中に隙けるを聞きて兄弟は早速に食物を齎らして與へしに其の喜ひは言外に翌日より會員中醫を業とせらるゝ一人兄弟は懇ろに診察し投藥し傳道し其他二三の兄姉は晴雨に論ふく日日親子四人の爲にパンを運搬し靈のパンを與ふると玆に四十八日今は病氣平癒して職業に就くとを得日曜日には教會に出席しつゝあるなり。

○根津藍染町に在る車夫北村氏昨冬より肺病に係りて床中に在連慘悲凉の光景は一家を蔽ふて暗憺たるも十三歲に餘る童兒側に侍して看護怠るなく奔走盡力至らさるなきこそ殊勝なれ同氏は此迄區役所の救恤と慈善家の寄贈とにより露命を繫ぎ居りしも今や其れも絕へ絕へにて大に困り居りますとの言なれば竹本氏の如く給與傳道四十八日其後本鄕區役所の絕へさる救助を得るに至りたれば本會は之を助くるを止めたり。

○本鄕追分町に在る車夫谷氏(元巡査)家族凡て五人主人病氣にて就業なし雖く妻子殆んと飢餓に迫るを以て本會は之を救助し之を療養して余快に至りしも何分衰弱其職に耐へさるとの事を以て相當の金圓を貸與して煮込賣の資本となし稍其生計を立つるを得るに至れり忙中閑を得れは日曜日には教會に出席しつゝあるなり

牛込居住の信徒某氏長らくの間肺病にて惱み教會も已に救助手段なく百計盡きたるの際本會より救助するのとゝなり日々の食物を給し居りたるか氏は去る二十九日遂焉として此を逝る今其孤兒を世話せんとなし居るなり。

其他一時の急を救ひしもの七人詳細を擧くるの暇なし去れは玆に秘せんと欲して秘する能はさるものは斯る數ヶ月に亘りたる事業危急維を助けたたる事業に毀せる所ろは僅かに十四圓〇〇八厘なりしを是に於てか知るクリストか五のパンと二つの魚を以て五千人に頒與したるの奥義を之れ本會か慈父に感謝せさられんと欲するも實に已む能はさる所以のものなり。

貧民救助　祈禱會

編者云く報告右の如し、彼の金圓を寄送ありし無名の二慈善家は幸はひに其の天よりの慰さめを得玉ふべし。

週報

○官令　本週勅令無號同二百七號法律第八十一、八十二、八十三及び明治二十三年度歲入歲出總豫算追加及歲出豫算削除の件等を裁可公布せらる

○宮廷　十一日露國皇帝陛下の命名祝日に附き勅使を同公使館に遣さる●十二日天皇陛下內閣へ臨御あらせらる

○政治十一日河島醇氏暴行者に傷けらる●十二日山縣、西鄉、山田、松方、後藤、青木、樺山、芳川、陸奥の九大臣は內閣に參集して御前會議を開けり●同日山田司法大臣は法官會議に於て一場の演說を爲せり●十三日小久保喜七氏要擊せらる●十四日江東中村樓に於て關東大懇親會開かる同日板垣伯立憲自由黨に加入せり●十五日立憲自由黨結黨式擧行せらる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夏季休業中の女學雜誌

青年男女の學生諸君、炎暑を山林幽邃の地に避けて閑書靜讀し、此際總じて雜誌新聞紙の愛顧を欠きたる憾み少なしとせず、今や鮮新爽快の活氣を以て復た此度復校せらるに會し、此の暑中二ヶ月間の雜誌を顧慮して、舊友と再たび握手せらるゝは當に其の温情の尤も愉快を感じ玉ふ所ろあるべし。女學雜誌は云く、妾は、又、生は、

社說に於て

「詩仙」と云へる、幽にして高く、淸くして趣きある詩論三篇を本誌二百廿一號以下三號に分載したり。題を分つて、詩とは何如なるものぞ、歌の論、歌の弊、歌の美、万葉集、宗教心なし、貴族的なり、優弱あり、長歌長からず、歌の佛性、歌の未來、の十一節となす。蓋し詩人文學者一讀の價ひあるべし。

「細君内助の辨」三章は、二百二十四號以下三號に見ゆ、伉儷和樂、團欒ホーム團欒、内助優貞の諸德を敍述して殆んど洩らすとなく、自ら時弊に向つて一大針を挿入したり。

第二百二十六號の「鴨立澤に於ける西行」は、句々凄蒼、或は哲學論あり、或は禪定解見あり、或は流轉盛衰を大悟し更に一頭卓歩するの大觀念あり、人云く、近來の好文字と、若し然るとあたはざるも亦た讀者の一願を煩はすに足るべし。

第二百二十七號「青年に警告す」の一篇は、大ひに青年諸氏を奮激痛泣せしめたり、同號の「良人ある寡婦」の一篇は、多數多恨の婦人に代つて其の深意微情を代言し盡し殆んど餘蘊なし。

論說に於て

在ハワイ受洗の始末（安藤太郎君）第二百二十一號以下三號分載
慈善事業に對する婦人の心得（スピヱチル君）第二百二十二號
女子教育の私見を述て巖本兄に寄す（寺尾熊三君）第二百二十四號
内助の功益（中島とし子）第二百二十六號
何故に女子は政談集會に參聽するとを許されざる乎 第二百二十八號
幼稚園の論（豐田芙雄子）第二百二十九號

議員、官吏、有志者に呈す

拜啓益々御淸安奉賀候國家の爲め重職に就き日夜御黽勉乍陰邦民の爲に鳴謝致居事に候陳者近年女子教育頓かに進歩し二十三十にして初めて女學校に入る人も多く有之の勢ひ喜ばしきとと存候然るに既に一家の妻とあり特に多忙多用の良人を内助せらるゝの令閨諸君は出でゝ學び給ふの暇も固より少きの處ろ、世は息まず開化し婦人の地位著じるしく進歩致候に付きては、今後婦人同性の往來は彌よ自由になり女性が外に出でゝ宴會交際に周旋せらるゝとも亦彌よ頻繁と可相成歟其際貴夫人にして萬一普通一般の學識に欠る如きと有之時は談話應接の砌り面白からぬと數多出來すべくと窃かに掛念するもの少からず候。

弊社此等の不便に痛歎し、毎月一回通信女學講義錄と云へるを出版し、學校に通はれぬ婦人は家に居て獨學する樣、當今の女が心得べき學問を悉く講義し、一日四枚宛讀む時は家政、育兒、看病、衛生、生理、漢學、和學、英學、歌、百人一首講義、作文、算術、動植、理化學、萬國及日本の歷史、並に地理、等を一年にて滯りなく卒業し女學雜誌社の卒業證書を受くるの規則を設け講義錄の文章は分り易き上に一々假名を附け、且つ繪を入れ、尙不明瞭の所は質問に答へ專ら信切を旨とし、學校にて直ちに教授を受くるよりも一層便利多く致候、毎月々謝卅二錢拂込の人には二百枚餘の講義錄を月々送るとに候目下既に第八卷を出版致たれども、今月新たに入學し其第一卷より順次に稽古するも宜しきとに候。

右の主旨何卒御賞玩被下弊社の精神御吹聽の程偏へに奉委賴候、凡そ貴夫人家に居て内を修むるの暇ましく、當今の女學悉皆講習の上に内助の德一きわにして所謂烈夫賢妻共に國事に盡力するの美觀國中に充滿するに至らば邦家の幸福至大と存じ候敬白

右通信女學講義錄壹冊三十二錢（全國無郵稅）毎月十日出版、半年前金壹圓八拾錢。一年前金三圓五拾錢。女學雜誌と併せ購讀の人には壹割を減ず。

東京市麴町區六番丁六番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第二回懸賞和歌

正誤

本誌二百二十八號に掲載せし懸賞和歌は誤植多かりし故左に訂正す。校正する人暫らく不在なりしゆめ彼の誤植も生し、之を訂正する事も大ひに延引せり、點評者に對し、出詠者に對し、亦讀者諸君に對し、誠に面目なし、今謹で謝す、諸君之を諒し玉はゞ幸甚なり、其少しく誤れるものは全詠を再び載せず、甚しく誤れるものは點者の直せしまゝを掲ぐ、讀者願くは先きの詠者の歌と比して一覧あれ、第一、第二と先に掲げし順に依て正す。

夏の山家

第一　岩清流るゝ音を枕にてねふる山邊は夏どしもなし

第二　塵の世の夏を離れし我山の松に高くも蟬ぞなくなる
評こは山家蟬の詠なり首句甚た宜しからず又かく塵の世とでも世の中をいやしめたる上は勢是に對する山家の清高なる心を出さゞるを得ず（先に此評を脱す）

第四　山里の下に夕の字を入る、評中凉きは强きの誤

第五　世の中に夏は流れて出でつらん我山川の音の涼しさ

第六　山川の岩間の風の通ひ來て夏にはうとき松の下庵
評中何しやは何々やの誤

第七　下句は「音間宿は涼しかりけり」とす、
評上句にかくばかり云ふ勢は下句になし（先に此評を脱す）

第九　秋をまつ心も知らで涼しきは片山陰の住ゐなりけり

第十六　下句「山邊の庵は住よかりけり」なり

第十八　上句「夏をこそ遁れもしつれ云々」なり

第十九　上句「なそく出ではやくかくれて云々」なり村份の爲緯他詠の如く高くす

第二十　評中殊にさへるぞ强く云々は殊にさへぞ强く云々と直す

第廿二　評中なる通古はみる過去の景色の誤なり、いはざるは心得ずは云はざるを得ずと正す

第廿五　下句「夏をよそなる山の下庵」なり

第廿六　我山は夏こそ知らね谷川の岩に暑さも砕け果つゝ

第廿七　下句やまの下に下の字を入る

水邊晩涼

第一　下句「夏も家路も忘れ果てつゝ」なり

第三　下句「きらめく影ぞ涼しかりける」なり

第四　清水むすふれに云々はむすふ手にと正す

第五　評中點者は不充分とすの一句前文と續く

第七　上句「吹風に柳の青葉打なびき」と正す

第十一　夕立の過し澤邊の蓮葉の露に宿れる月の涼しさ

第十四　終句調べをなさぬ心地す而し點者の直せしは彼の如し他日問ひ合せて更らに正すべし、

第十五　うかびそめつゝはうかびろめたるの誤なり

鈴木弘恭大人述	つれ〳〵草講義	一冊	價金十錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越朗太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	同十八錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同廿五錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演説	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の教員孰れも熟達善良なり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

謹告

毛糸新荷輸着ニ付
貴夫人貴孃様方へ

弊店專賣 **横文字印毛糸** ハ夙ニ精撰無比ノ御賞讃ヲ蒙リ御蔭様ニテ輸入販賣ノ高追々非常ノ多額ニ相成候ニ付從來取引ノ英獨製造元ヘ過般協議ヲ遂ゲ格別低廉輸入ノ方法計畫致候ニ付爾後一層勉強廉價ヲ以テ御高需ニ應シ奉リ候ニ就テハ目下

流行各種ノ新色 澤山來着仕候ニ付平素御愛顧ノ**內外**

貴夫人貴孃様方 何卒御知友様方へ御吹聽被成下倍舊御引立陸續御用向被仰付度伏テ奉願上候 **敬白**

東京市京橋區銀坐三丁目七番地
伊勢與事 **三枝商店**

毛糸及附屬品
西洋小間物商

九月より婦人傳道者募集に付き志願の者は當會に於て問合すべし

但し少しく教育を受けし者を要す

麻布永坂町一番地

聖ヒルダ傳道會

華月館詩文添削批評規約

第一條 詩文ノ添削批評ハ丁寧懇密ヲ主トシ吟誦ノ間容易ニ詩文ノ秘訣ヲ會得セシメンコトヲ勉ム

第二條 詩文ノ添削批評ヲ囑託ス・者ハ各自隨意ノ謝料ヲ[illegible]稿ト同時ニ[illegible]ヲ送附スヘシ

第三條 傑作ハ新聞雜誌ニ載錄シテ[illegible]ヲ作者ニ贈寄ス

第四條 入館金五十錢前納スル者ヲ華月館々友ト為シ證票ヲ付與ス

第五條 館友ハ滿六箇月間毎月文二篇詩五首以文體詩體ヲ問ハス無料ニテ添削批評ヲ囑託スルヲ得 但シ文ノミナレハ毎月[illegible]ノミナレハ毎月十首ヲ限トス

第六條 入館金三十錢前納スル者ハ滿三箇月間館友ノ資格ヲ有ス

第七條 館友ハ詩文上百般ノ難疑凡テ無料ニテ質問スルコトヲ得ヘシ

第八條 返稿期限ハ館友三日間其他ハ五日間ト定ム

陸奥國弘前百石町

華月館

河村巖城

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

女生徒募集廣告

學年試驗ヲ了リ內外ノ教師ヲ增聘シ來木月十日ヨリ始業ス各級入學ヲ許ス委細ハ本館規則ニ就テ見ルベシ

明治廿三年九月

麹町區上六番町十七番地

開成女學館

横濱山手百七十八番

フェリス和英女學校

本校は**幼稚科小學科豫科本科高等科**の五科に分ち**智德躰育**の大本に基き內外教師周到懇切に之を授く冀くは世の眞の**女子教育**を望み着實進步を求むるの諸彥幸に之を信じて愛娘令妹を付託せられよ

女學生第五號

明治二十三年九月廿三日發兌

女學生

●●毎月一回廿日發兌

●本誌は京濱間十叉五の女學校同盟聯合して發行するものあり今や我國の女學愈盛なりとす女子たるもの亦學問に通し文章をよくするの必要ある此に喋々するを待たずして明かなるべし女學生の出る誠に偶然ならず、尙何處の女學校を問はず同盟に加はらんとするものは續々申込みあるべし●文學會は一校の生氣となるべきものなれども今日女學校內の文學會も盛なるはなかるべし女學生は各學校文學會の中心となり記錄となり廣告となり且つ奬勵者たらんと欲す

●社說には學藝上の論說を掲け文欄には女學生諸子の文章を載す同盟に加はらざる女學生より投寄の文を寄書と爲す其他公評、女生交詢、報告、講武等の諸欄を置き專ら女學生の爲ならん事を計る

發行所　下六番町六番地　**女學雜誌社**

貧民救助義捐金

一金壹圓六拾七錢五厘　江州栗太郡笠縫村　駒井ふさ
一同　五拾錢　札幌安息日學校子供
計金貳圓拾七錢五厘

●●英國ヘンリー、ヂー、ボーン氏編纂
經濟雜誌社譯

政治家必携

再版 政事類典

全五冊價金拾貳圓紙數キク判四千九百ページ、脊革金字入クロース表紙

右は原名「ポリチカル、サイクロペシア」と題し行政、經濟、財務、商業、法律等より交際上の諸項に至るまで上、羅馬、希臘の往昔に溯り下、今日の現狀を審かにし原委沿革を歴敍し政治の事項殆ど網羅して遺す所なく政治域內の諸科に通曉するに於ては則ち復之れに若くものなき書にして發刊以來大に世の好評を博し既に再版を爲し賣盡し暫らく品切の處國會の開期既に迫りたるを以て此書を要望せらるゝもの陸續斷へず依りて今般增刊せり**帝國議會**の**初舞臺**に立て大に政治の得失を討議せんとする**議員諸君**は勿論苟も**政治の事項**を論議せんと欲するものは須臾も坐右に缺く可らざる珍書也請ふ購求あらんことを

發兌　東京京橋區彌左衛門町　**經濟雜誌社**　●**賣捌**　東京小林。丸善。博聞社。中西屋。興論社。●大阪岡島。梅原。丸善。松村。嵩山堂。●京都大黒屋●横濱丸善●名古屋川瀬

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女生徒募集廣告

學年試驗ヲ了リ內外ノ敎師ヲ增聘シ來ル十月十日ヨリ始業ス各級入學ヲ許ス委細ハ本館規則ニ就テ見ルベシ

明治廿三年九月　麹町區上六番町十七番地

開成女學館

横濱山手百七十八番

フェリス和英女學校

本校は**幼稚科小學科豫科本科高等科**の五科に分ち**智德躰育**の大本に基き內外敎師周到懇切に之を授く冀くは世の眞の**女子敎育**を望み着實進步を求むるの諸彥幸に之を信じて愛娘令妹を付託せられよ

女學生第五號

明治二十三年九月廿三日發兌

女學生

●每月一回●廿日發兌

●本誌は京濱間十又五の女學校同盟聯合して發行するものなり

今や我國の女學愈盛なりとす女子たるもの亦學問に通し文章をよくするの必要ある此に喋々するを待たずして明かなるべし女學生の出る誠に偶然ならず、尙何處の女學校を問はず同盟に加はらんとするものは續々申込みあるべし●文學會は一校の生氣となるべきものなれども今日女學校內の文學會も盛なるはなかるべし女學生は各學校文學會の中心となり記錄となり廣告となり且つ奬勵者たらんと欲す

●社說には學藝上の論說を揭け文欄には女學生諸子の文章を載す同盟に加はらざる女學生より投寄の文を寄書とす其他公評、女生交詢、報告、講武等の諸欄を置き專ら女學生の益ならん事を計る

發行所　下六番町六番地　**女學雜誌社**

貧民救助義捐金

一金壹圓六拾七錢五厘　江州栗太郡笠縫村

一同　五拾錢　札幌安息日學校子供

計金貳圓拾七錢五厘　駒井ふさ

政治家必携

●英國ヘンリー、ヂー、ボーン氏編纂

●經濟雜誌社譯

泰西政事類典

全五冊價金拾貳圓紙數キク判四千九百ページ、脊革金字入クロース表紙

右は原名「ポリチカル、サイクロペシア」と題し行政、經濟、財務、商業、法律等より交際上の諸項に至るまで上、騎馬、希臘の往昔に溯り下、今日の現狀を審かにし原委沿革を歷叙し政治の事項殆ど網羅して遺す所なく政治域內の諸科に通曉するに於ては則ち復之れに若くものなき書にして發刊以來大に世の好評を博し既に再版を爲し賣盡し暫らく品切の處國會の開期既に迫りたるを以て此書を要望せらるゝもの陸續斷へず依りて今般增刊せり帝國議會の初舞臺に立て大に政治の得失を討議せんとする議員諸君は勿論苟も政治の事項を論議せんと欲するものは須叟も坐右に缺く可らざる珍書也請ふ購求あらんことを

發兌　東京京橋區彌左衛門町　**經濟雜誌社**●**賣捌**

東京小林。丸善。博聞社。中西屋。輿論社。●大阪岡島。梅原。丸善。松村。嵩山堂。●京都大黒屋●横濱丸善●名古屋川瀨

東京市麹町區下六番町六番地

發行所　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　嚴本善治

印刷人　堀口庄三

遞信省認可